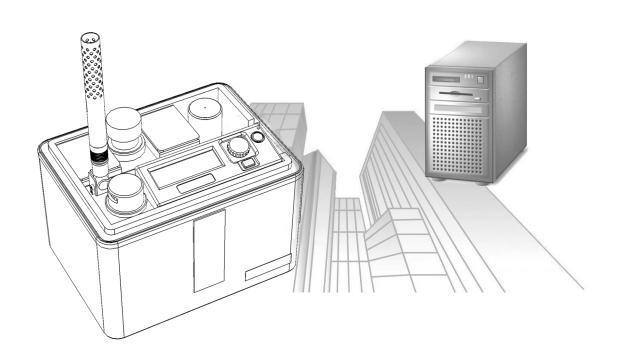


室内環境測定セット

IES-5000

報告書作成プログラム 取扱説明書(厚生労働省推奨報告書書式編)

OPERATION MANUAL



このたびは、当社製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。

- ●この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱い方を記載しています。
- ●ご使用前にこの取扱説明書と添付の保証書を最後までお読みのうえ、安全に正しくお使いください。
- ●お読みになった後は、いつでも取り出せる場所に保証書とともに大切に保管してください。

室内環境測定セット IES-5000取扱説明書の構成

本製品の説明書は以下の分冊構成になっています。目的の説明に沿った内容の冊子をごらんください。

○メインユニット取扱説明書(はじめにお読みください)

はじめに本書をお読みください。本製品の構成や接続方法について説明しています。

○測定ソフトウェア取扱説明書

Windows用測定ソフトウェアの使用方法について説明しています。 タブレットPCを用いた測定方法について説明しています。

●報告書作成プログラム取扱説明書 【本書】

Windows用報告書作成プログラムの使用方法について説明しています。 厚生労働省推奨書式による使用方法について説明しています。

ご使用の前に

- ◆本製品を使用する前に、必ずこの取扱説明書を最後までよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ■この取扱説明書は、手近な場所に大切に保管し、いつでも取り出せるようにしてください。

⚠警告

- 本書の安全に関する指示は、内容をご理解のうえ、必ず従ってください。
- 製品本来の使用方法および取扱説明書に記載の使用方法をお守いださい。

以上の指示を必ず厳守してください。 指示に従わない場合は、ケガや事故の恐れがあります。

■取扱説明書について

- 取扱説明書の内容は、製品の改良などにより予告無く変更することがあります。
- ●本書の内容については万全を期していますが、万一不審な点や誤り、記載もれがあった場合は、お手数ですが当社までご連絡ください。
- ●本書の著作権は柴田科学株式会社に帰属します。本書の一部または全部を、柴田科学株式会社からの書面による事前の承諾を得ることなく複写、複製(コピー)、転載、改変することを禁じます。

目 次

ソ	フトウ	フェアこ	『使用に際して	7
は	じめに	<u> </u>		8
1	動作	環境		8
2	測定	報告書作	作成プログラムのインストール	9
	2-1	インス	.トール手順	9
3			D起動	
U	3-1		vs 10	
	3-2		VS 共通	
	3-3		での八 <u>個</u>	
4			- 使の自由 操作方法	
4				
	4-1	幽田… 4-1-1		
		4-1-1 4-1-2	共週 回 回	
		4-1-2	報告書作成情報の保存フォルタ選択画画報告書作成情報フォルダにおこなう作業内容の選択画面	
		4-1-4	我日音 F 成情報 フォルグに 83 こな フド 未 F 1 合の 医 水画 回 各種管理 画 面	
		4-1-5	報告書作成画面	
	4-2		——————————————————————————————————————	
		4-2-1	ファイル	
		4-2-2	- · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
		4-2-3	表示	18
		4-2-4	ツール	18
		4-2-5	カスタム	18
		4-2-6	ヘルプ	18
5	各種登録作業			
	5-1	データ	構造	19
	5-2	保存フ	'ォルダの操作	20
		5-2-1	保存フォルダの検索	20
		5-2-2	保存フォルダの作成と初期化	20
		5-2-3	フォルダの修復	20
		5-2-4	読み込み	22
		5-2-5	建築物一覧の表示	22
	5-3	作業者	登録	23
		5-3-1	作業者の追加	
		5-3-2		
			作業者の表示順変更	
		5-3-4	作業者のインポート	23

		5-3-5	作業者の基本情報編集	23
	5-4	建築物登録		
		5-4-1	建築物の追加	24
		5-4-2	建築物の削除	24
		5-4-3	建築物の複製	24
		5-4-4	建築物の表示順変更	24
		5-4-5	建築物のインポート	24
	5-5	建築物	」の情報編集	25
		5-5-1	建築物の基本情報編集	25
		5-5-2	建築物の測定場所(測定ポイント)情報編集	25
		5-5-3	建築物の測定順路の編集	26
		5-5-4	建築物の情報の印刷	26
		5-5-5	測定記録の消去	26
	5-6	登録業	者登録	27
		5-6-1	登録業者の追加	27
		5-6-2	登録業者の削除	27
		5-6-3	登録業者の表示順変更	27
		5-6-4	登録業者のインポート	27
6	報告	書作成		28
	6-1			
		6-1-1	測定済みの記録からの新規作成	
		6-1-2	既存の報告書の編集	
	6-2	編集		
	-	6-2-1		
		6-2-2	表紙のカスタマイズ	
		6-2-3	概要	
		6-2-4	項目表示オプション	
		6-2-5	詳細	
			グラフ	
	6-3		集	
		6-3-1	- 測定場所の編集	
		6-3-2	並べ替え	
	6-4		基本值	
		6-4-1	- エーニー 基本値として保存される内容	
		6-4-2		
			 読み込み	
	6-5		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
	_		·	

7	印刷。			47
	7-1	報告書	宇印刷	47
		7-1-1	全印刷	47
		7-1-2	選択中印刷	47
		7-1-3	表示中印刷	47
		7-1-4	空白印刷	47
	7-2	印刷設	t定	47
		7-2-1	順路印刷	47
		7-2-2	余白調節	47
		7-2-3	白黒印刷	47
8	報告	書保存		48
	8-1	ファイ	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	48
		8-1-1	報告書形式での保存	48
		8-1-2	CSV/EXCEL 形式での保存	48
		8-1-3	クリップボード	48
9	報告	書オプシ	ンョン	49
	9-1		·書式	
	9-2		· — · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
	9-3			
	9-4			
	9-5		50	
		9-5-1	・ 実施者・補助者の欄の行数	50
		9-5-2		
		9-5-3	測定値の最高値を右側に表示する	50
		9-5-4	使用測定機器の入力欄を追加する	50
		9-5-5	箇所数の幅	50
		9-5-6	概評の文字の大きさ	50
	9-6	詳細ペ	ページ設定	51
		9-6-1	場所名の幅	51
		9-6-2	備考を結合する	51
		9-6-3	詳細行	51
		9-6-4	外気欄の位置	52
		9-6-5	末尾を空行で埋める	52
		9-6-6	使用測定器機器欄を自由にする	52
		9-6-7	測定場所説明	53
		9-6-8	外気の2地点目(99)を表示する	53
		9-6-9	外気の在室・喫煙人数を表示する	53

10	オプ	ンョン		54
	10-1	初期表	示	54
		10-1-1	管理画面の初期表示	54
		10-1-2	報告書画面の初期表示	54
		10-1-3	印刷時の項目選択初期値	54
		10-1-4	ツールバー	54
		10-1-5	起動時	54
	10-2	報告書		54
		10-2-1	報告書の測定点数	54
		10-2-2	グラフ	55
		10-2-3	初期の登録業者	55
		10-2-4	報告書を作成する時	55
		10-2-5	報告書を閉じる時	55
	10-3	印刷		56
		10-3-1	順路印刷	56
		10-3-2	余白調節	56
		10-3-3	印刷設定	56
	10-4	互換性		56
	10-5	保障外		57
	10-6	デバック	グ	57
		10-6-1	報告書ページフォント変更	57
		10-6-2	ファイルロックを無効にする	57
11	拡張権	終能		57
•			表示と編集	
10				
13	注意	事項		59
お	問い合	わせ		59

ソフトウェア ご使用に際して

ご注意

本ソフトウェアはお客様が本使用許諾契約の内容にすべて同意される場合にかぎり、お客様が本ソフトウェアを使用できるものといたします。パッケージを開封すると、本使用許諾に同意したものと判断いたします。 インストール開始前に本使用許諾契約をよくお読みください。

お客様が本使用許諾契約に同意されない場合、本ソフトウェアは使用できないものとします。この場合は柴田科学株式会社、または販売代理店に本ソフトウェアをご返却ください。当社規定の様式に従い、ご購入代金をご返却いたします。

事前注意事項

本ソフトウェアのインストール、初期起動操作及びお客様のご使用のパーソナルコンピュータに関わる設定はお客様ご自身で実行してください。

当社及び販売代理店では、当該ソフトウェアに関わるお客様のパーソナルコンピュータを直接操作することを禁じています。

(コンピュータ内部のストレージの大容量化のため、設定等に関わる操作を当社または販売代理店の担当者がおこない、万一事故が発生した場合にストレージ保存内容の保証問題~訴訟問題に発展します。本件に関わる事故を防ぐためにもインストール作業、及び設定変更は必ずお客様側の責任においておこなってください。)

インストール方法、操作方法が不明な場合はパーソナルコンピュータ本体の取扱説明書、または本ソフトウェアの取扱説明書の該当部分をお読みください。

使用許諾契約及び保証

許可事項

• 展開された実行型式ソフトウェアまた関連添付ファイル1式を、最大3台のコンピュータで使用すること。

禁止事項

- 本ソフトウェアに付属している取扱説明書などの文書の複写及び、配布をおこなうこと。
- 本ソフトウェアの一部または全部に関して、その使用権を再設定すること。
- 本ソフトウェアのソースコードを調べたり、本ソフトウェアを模倣した製品を作る目的でリバース・エンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブル、修正、翻訳をおこなったりすること。
- 本ソフトウェアのバージョンアップまたは以前のバージョンとそっくり置きかえられる新バージョンを受け取った場合に、その後も本ソフトウェアの以前のバージョンまたはコピーを使用すること。

保 証

- ◆本ソフトウェアの機能には不具合が無いことを充分検証しています。これは本ソフトウェア開発段階における国内主要パーソナルコンピュータ製造社数社での検証となります。全世界のパーソナルコンピュータ及び周辺機器での動作は保証しかねます。この場合柴田科学株式会社は、動作に際し最大限の努力をおこないますが、パーソナルコンピュータの個々の特性、内部インストール済ソフトウェア、また接続済周辺機器の環境状態によっては動作できない場合も考えられます。この際柴田科学株式会社が検証したパーソナルコンピュータ及び内部環境以外での動作不具合につき柴田科学株式会社での製造元責任は問われないものとします。
- 本書はお客様が本ソフトウェアに必ずや満足されることを保証するものではありません。また本ソフトウェアの内容にまったく誤りがないことを保証するものでもありません。

損害賠償

- 本使用許諾契約及び保証書補償条項の対象如何に関わらず、柴田科学株式会社は、特定の損害、間接損害、その他本ソフトウェアのインストール、また操作による一切の責任を負いません。具体的な損害として、本ソフトウェアの使用によって、お客様が何らかの利益を受け損なったり、データが消失してしまった場合や、本ソフトウェアが使用不能になったりした場合も含まれます。そのような損害が生じる可能性について柴田科学株式会社が以前から警告していたとしても、損害に対する責任を柴田科学株式会社が負うことはありません。
- どんな場合にせよ、柴田科学株式会社の賠償責任が、本ソフトウェアのご購入代金を超えることはありません。上記の責任限定、免除規定は、お客様が本ソフトウェアを返品するか否かに関わらず適用されます。

はじめに

IES-5000報告書作成プログラムは、IES-4000報告書作成プログラムをベースに、タブレットPCで使えるようにアップデートしたものです。プログラム上の表現や本取扱説明書では、「IES-4000」という表現のまま記載されていますが、IES-5000でご利用いただけます。また本プログラムは、IES-5000だけでなくIES-4000、IES-3000にもご利用いただけます。本書の表記上IESと書かれているものは、3つの機種が対象です。

1 動作環境

ES-4000 空気環境の測定報告書作成プログラム(以下本プログラム)は、以下の環境で動作します。

① 動作オペレーティングシステム Windows 10 (32bit, 64bit) **1 (以下OS)

② パーソナルコンピュータ 上記OSが稼動するパーソナルコンピュータ及び (以下PC) CPU: PentiumⅢ相当 1G Hz以上 .Net Framework4.7.2 **2 以上が必要になります。

③ メモリ 512MB以上

④ ディスプレイ800×600 256色以上の解像度で表示できるディスプレイ (1024×768 HighColor推奨)

⑤ インターネット環境 プログラムダウンロードのため **3

⑥ 内部ストレージ 800MB以上の空き容量が必要です。

⑦ プリンター A4対応のレーザープリンターまたはインクジェットプリンターを必要とします。**4

- ※1 タブレットPC前提であるため、Windows10と表記しますが、本プログラムのみはWindows 7 SP1、8.1でも動作します。その場合、IESからのデータはUSBメモリを介することになりますので、1ポート以上のUSBポートが必要となります。
- ※2 本プログラムの動作に必要となります。使用されるPCにインストールされていない場合は、発行元であるMicrosoft社のサイトからダウンロードしてください。
- ※3 使用されるタブレットPCをインターネット接続しない場合は、他のPCを利用しインターネット 経由で本プログラムをダウンロードしてください。他のPCから本プログラムを、USBメモリ等 を利用して移動してください。
- ※4 プリンター機器についてはメーカー問わず、600DPI以上出力可能な解像度対応機器を使用してください(カラー/モノクロとも可)。プリンタードライバーをインストールする際、極力メーカーから添付されている最新ドライバをご使用ください。最新ドライバについては購入メーカーのホームページよりダウンロードしてご使用ください。このプログラムについての印字関係は一部プリンタードライバーに委ねていますので、ドライバ等によっては必ずしも鮮明に出ない場合がありますが、ご了承いただけますようお願い致します。

使用PC、及び周辺機器につきましては、一般的な機材で動作を確認していますが、一部機種におきまして正常に動作しない場合もあります。その際は当社までご連絡ください。本仕様は特性、機能に影響のない範囲で予告なく変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

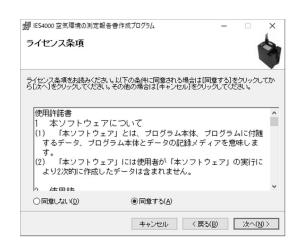
2 測定報告書作成プログラムのインストール

2-1 インストール手順

- (1) 柴田科学のHPからユーザー登録をおこなってください。 https://www.sibata.co.jp/members/register/
- (2) ログイン後、IES-5000欄から本プログラムをダウンロードしてください。
- (3) Softwareフォルダ内の「Setup」ファイルをダブルクリックして実行してください。
- (4) 次に IES-4000 空気環境の測定報告書作成プログラムのセットアップが開始されます。



(5) ライセンス条項 使用許諾書を読み、同意できる場合には 「同意する」を選択し[次へ]をクリック します。



(6) インストール選択

インストールするプログラムを選択し ます。

ここでは「空気環境の測定報告書作成プログラム」にチェックを入れます。 [次へ]をクリックして次に進みます。



(7)インストールするフォルダの選択 インストール先のフォルダを変更する

インストール先のフォルタを変更する ことができます。

インストールをおこなっているユーザーアカウントのみで使用できるようにする場合は、「このユーザーのみ」を選択します。

通常は「すべてのユーザー」にします。 [次へ]をクリックして次に進みます。



(8) インストールの確認

インストールをおこなうかの確認が表示されます。

問題なければ、 [次へ] をクリックして次に進みます。

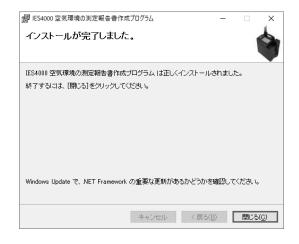


インストールを開始するとWindows のバージョンと設定によってはセキュリティのために右図のようなダイアログを表示することがあります。

実行しようとしているプログラムが正しければ「はい」を選んで進めてください。



(9) [閉じる] をクリックし、インストール を終了します。



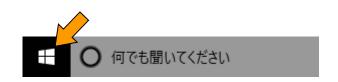
3 プログラムの起動

3-1 Windows 10

画面の左下にマウスを移動させる、タッチ画面でタッチする、またはキーボードの [Win]キーを押すことでスタート画面が表示されます。

スタートメニューの一覧で S の項目にある「Sibata」フォルダを展開すると右図の左下ように報告書作成プログラムのアイコンが表示されます。あるいはスタートにピン止めをおこなうと右図の右にあるような大きなアイコンが表示されます。

このアイコンをクリックまたはタップする と起動できます。



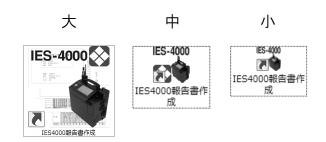


3-2 Windows 共通

デスクトップに配置されているアイコンを ダブルクリックすると起動できます。

アイコンの大きさはデスクトップアイコンの表示設定によって変化します。

設定によってはデスクトップにアイコンが 表示されていない場合もあります。



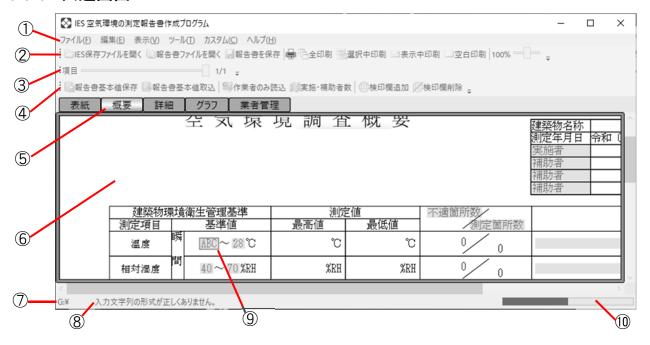
3-3 起動直後の画面



4 画面構成と操作方法

4-1 画面

4-1-1 共通画面



1	メニュー	実行可能な処理が一覧表示されます。
2	ツールバー	ファイル操作や印刷の処理を実行できます。
	(標準)	
3	ツールバー	作業領域に表示される表示項目の番号を選択。
	(項目)	現在の項目番号/総項目数が表示されます。
4	ツールバー	作業領域に表示されている内容によって変化します。
	(状況依存)	
(5)	作業ページ選択	作業領域で表示可能なページの一覧が表示されます。
		選択することで表示するページを切り替えられます。
6	作業領域	登録作業や報告書編集作業のページを表示する領域。
		作業領域に表示される画面はメニューの [表示] → [ズーム]
		あるいはツールバー(標準)のスライダーで拡大縮小がおこな
		えます。領域に表示しきれない場合は右・下のスクロールバー
		で表示位置を調整できます。またキーボードの [Alt] キーを押
		しながら表示部をマウスでドラッグでも位置を調節できます。
7	選択中ドライブ	開いているIES保存ファイルのドライブが表示されます。
		表示されている時はUSBメモリを抜かないでください。
8	状況メッセージ	入力エラー内容などが表示されます。
9	入力箇所	作業領域内では水色の箇所を選択すると文字の入力がおこな
		えます。入力が許可されている内容で入力されていないと赤
		枠が表示され、未確定状態となります。状況メッセージを参考
		に修正してください。
10	進捗状況	時間がかかる処理の場合に進捗状況が表示されます。

ツールバー左端をマウスでドラッグするとツールバーを移動できます。またオプションでウィンドウの上下左右に配置をすることも可能です。

4-1-2 報告書作成情報の保存フォルダ選択画面



1	フォルダー覧	PCに接続されているハードディスクやUSBメモリドライブと、各
		ドライブのIES用の保存フォルダが一覧表示されます。
		IES保存フォルダが見つかった場合はフォルダ名の左に黄色のア
		イコンが表示されます。
2	フォルダ更新	USBメモリを後から接続した場合などで一覧に目的のドライブ
		が見つからない場合に再検索させます。
3	読み込み	一覧で選択したフォルダを管理もしくは報告書作成のために読
		み込みをおこないます。
4	直接読み込み	一覧にない場所に保存されている場合に読み込みをおこないます。
(5)	修復	一覧で選択されているフォルダの内容が破損している場合に修
		復をおこないます。
6	初期化	一覧でIES-4000(報告書)を選択し、[初期化] ボタンをクリッ
		クするとフォルダを作成します (フォルダ名の左に黄色のアイコ
		ンが表示)。
		フォルダが作成された状態で [初期化] ボタンをクリックすると
		フォルダ内のデータを初期化します(フォルダ名の左、黄色のア
		イコンは消えません)。

4-1-3 報告書作成情報フォルダにおこなう作業内容の選択画面

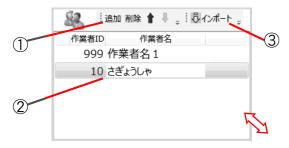


1	建築物一覧	登録されている建築物の一覧が表示されます。
		測定した回数と最後に測定した日時の一覧が表示されます。
2	報告書作成	選択されている建築物の報告書を作成します。
		詳細部の並び順を測定した順、登録してある測定順路の順、管
		理登録順の中から選べます。
3	管理	作業者登録や建築物の登録と順路作成の管理をおこないます。

4-1-4 各種管理画面

IES保存ファイルを開いて「管理」を選んだ場合に表示される画面です。

4-1-4-1 作業者管理画面



1	作業者操作	作業者の追加・削除・並べ替えをおこなえます。
2	作業者一覧	登録されている作業者の一覧が表示されます。
		作業者識別用のIDと名前を入力できます。
3	インポート	IES-3000の報告書作成プログラムで登録していた作業者を取
		り込んで作業者一覧に追加します。

⇔:マウスで大きさを変更できます。

作業者名は報告書作成画面の概要ページでの選択でも表示されます。

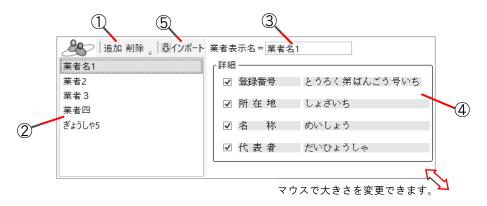
4-1-4-2 建築物管理画面



1	建築物操作	建築物の追加・削除・並べ替え・インポートがおこなえます。
2	インポート	IES-3000の報告書作成プログラムで登録していた建築物を取り
		込んで建築物一覧に追加します。
3	建築物一覧	登録されている建築物の一覧が表示されます。建物番号や名称の直
		接入力はできません。右の建物入力欄で入力をおこなってください。
4	測定場所一覧	選択されている建築物での測定場所一覧。
		場所の名前や回数・測定の順路を設定できます。
(5)	建築物入力	選択されている建築物の建物番号と名称の入力をおこなえます。
6	測定場所操作	測定場所の一覧の印刷・並べ替え・順路の設定などがおこなえます。
7	報告書作成	選択されている建築物の報告書を作成します。
8	測定記録消去	選択されている建築物の測定記録をすべて消去します。
9	件数日時	選択されている建築物の測定記録の情報が表示されます。

⇔:マウスで大きさを変更できます。

4-1-4-3 業者管理画面



1	業者操作	業者の追加・削除をおこなえます。
2	登録業者一覧	登録されている業者の一覧が表示されます。
3	業者名入力	一覧で選択されている登録業者の名称の入力をおこなえます。
4	登録業者詳細	報告書の表紙に記入する内容を入力します。
(5)	インポート	IES-3000の報告書作成プログラムで登録していた業者を取り 込んで登録業者一覧に追加します。

⇔:マウスで大きさを変更できます。

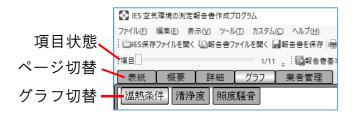
4-1-5 報告書作成画面

4-1-5-1 用紙画面

報告書作成画面は100%がA4横サイズの実際の大きさで表示されます。

●ディスプレイのDPIを正しく設定している場合

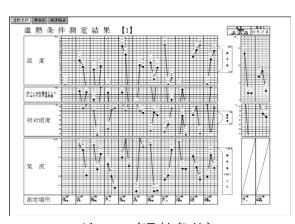
作業ページを切り替えることで表紙・概要・ 詳細・グラフ・業者管理を切り替えられま す。また、グラフはさらに温熱条件・清浄 度・照度騒音に表示を切り替えることがで きます。



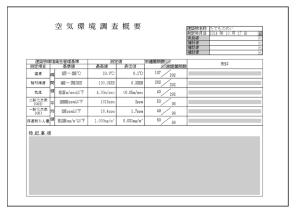
項目は表紙では表紙のページ数を表し、スライダーを動かすとページが切り替わります。 詳細とグラフでは測定場所の数を表し、スライダーを動かすと表示される測定場所が切り 替わります(詳細では表の右側に同等のスライダーが表示されます)。



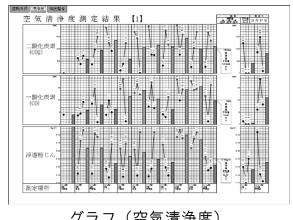




グラフ (温熱条件)



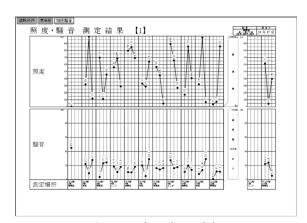
概要(測定値まとめ)



グラフ(空気清浄度)



詳細 (測定値全体)



グラフ (照度騒音)

4-2 メニュー 4-2-1 ファイル

IES保存ファイルを開く	IES本体が読み書きできる形式の保存ファイルの初期化・登録 管理、または読み取って報告書を作成します。
報告書ファイルを開く	報告書形式になっているファイルを開きます。
報告書ファイルを追加 読込	すでに開いている報告書ファイルに対して、既存の報告書ファイルの測定記録を追加します。
空の報告書を作成	なにも記入されていない報告書を作成します。
報告書を保存	報告書を報告書形式 (IES4, IES4T) 、CSV形式、EXCEL2007形式 (XLSX) 、EXCEL2002 (XMLSS) で保存します。
報告書基本値保存	報告書作成時に使用する建築物毎の基本値を保存します。
印刷	報告書をプリンターで印刷します。
閉じる	報告書を閉じます。
終了	報告書作成プログラムを終了します。

4-2-2 編集

クリップボードへ	報告書の内容をクリップボードにコピーします。
候補編集	報告書の概要での概評欄と詳細での備考欄で右クリックから 入力可能な候補を登録できます。
測定器一覧編集	概要に追加した測定機器欄に入力する測定機器を、あらかじめ登録することができます。
報告書 Option	報告書での範囲外書式や表示される項目数などの変更ダイアログを表示します。
項目表示Option	概要と詳細の測定項目の表示/非表示、項目の追加および編集をおこなうことができます。
データベースOption	IES本体が読み書きできる形式の保存ファイルに付随する設定の変更ダイアログを表示します。
表紙-表紙追加/削除	報告書の表紙を複数枚に追加や削除します。
表紙-登録業者	報告書の表紙の下段の登録業者項目を操作します。
概要-検印欄追加/削除	報告書の概要で検印欄を追加や削除します。
詳細-温度差/照度/騒音	報告書の詳細で該当列を表示するかを選択します。
詳細-記録編集	報告書の測定記録の値編集や並べ替えのダイアログを表示します。

4-2-3 表示

ツールバー-標準/項目	ツールバーの表示非表示を選択します。
ズーム	作業領域に表示される内容の拡大縮小をおこなえます。

4-2-4 ツール

オプション	報告書作成プログラムのオプションを変更できます。
拡張機能	報告書の表紙に入力項目や画像を追加するなどの拡張機能を有効に
	できます。(有効化に関しては当社営業へお問い合わせください)

4-2-5 カスタム

標準部品追加	登録済みの標準部品を現在の報告書に追加します。
標準部品として登録	現在の表紙へ追加済みカスタム部品を、今後作成する報告書に自
	動で追加される標準部品として登録します。
部品編集	カスタム部品の追加作業ウィンドウを表示します。
全部品削除	現在の報告書の表紙からすべてのカスタム部品を削除します。

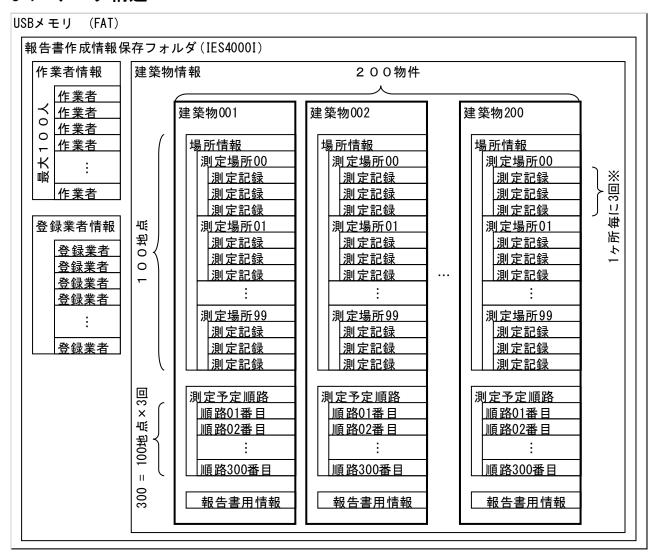
4-2-6 ヘルプ

ヘルプ	選択できません。
バージョン	本プログラムの起動直後の画面が表示され、バージョンを確認す
N-232	ることができます。

5 各種登録作業

測定する前の「作業者名」「建築物名」「建築物場所」「予定順路」の登録方法を説明します。

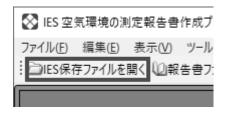
5-1 データ構造

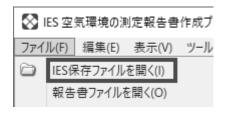


※ 4回以上の測定も可能ですが、報告書で表示可能なのは3点までになります。 測定記録は、無効にした記録を含めて合計400回分まで保存可能です。

5-2 保存フォルダの操作

5-2-1 保存フォルダの検索





ツールバーもしくはファイルメニューの[IES保存ファイルを開く]を選択します。

●「IES本体で読み書き可能な形式のファイル」を開く操作です。

ドライブ選択ウィンドウが表示され、ストレージが ドライブとして一覧で表示されます。

表示後にUSBメモリを接続するなどして表示されていない場合は、左上の[更新]ボタンをクリックすることで再検索し最新の状態に更新されます。



5-2-2 保存フォルダの作成と初期化

一覧から IES-4000の報告書を選択すると [初期化] ボタンが有効になります。 [初期化] ボタンをクリックするとそのドライブに保存フォルダを作成できます。

既にフォルダが存在する場合は、既存の登録内容を すべて消去して初期化されます。

確認のダイアログが表示されますので、初期化してもよければ [OK] ボタンを選択します。

作成と初期化時には大量のフォルダとファイルを 作成するため、初期化すると時間がかかる場合があ ります。



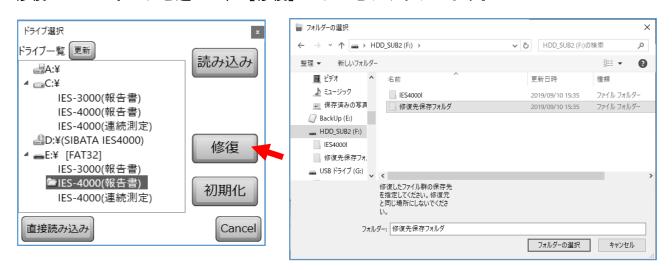
5-2-3 フォルダの修復

書き込み中に、電源を切ったなどの理由で保存されている ファイルの内容が不正になる場合があります。

ファイルが壊れてしまった場合、右図のエラーが表示されます。



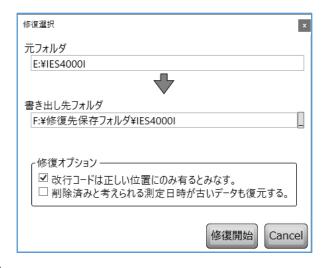
そのような状態で読み込みをおこなうと、読み込みに失敗する場合があります。 しかし、読み込みに失敗した場合でも可能な範囲で修復を試みることができます。 修復したいフォルダを選んで、「修復」ボタンをクリックします。



フォルダ選択ダイアログが表示されますので、修復した内容を書き出すフォルダを選んでください。

メモリが劣化してフォルダが不正になっているような場合には、同じメモリに書き込みをおこなうと劣化が進み、障害が拡大する可能性があります。別のドライブに書き出しをおこなうことを推奨します。

ドライブをPCから認識できない場合は修復作業をおこなうことはできません。また、本体で読み書きするUSBメモリの内容の修復を想定しているため、既定のフォルダのみ修復対象になります。



□ 改行コードは正しい位置にのみ有るとみなす。

チェックを入れると改行コードではなくデータ量で記録を分割します。 改行コードが破損している場合に正しい記録数を修復できる可能性が上がります。

□ 削除済みと考えられる測定日時が古いデータも復元する。

チェックを入れると破損のため削除と判定されてしまう測定記録も修復を試みます。 意図的に削除した記録や以前の記録も含めてすべて復元対象となります。

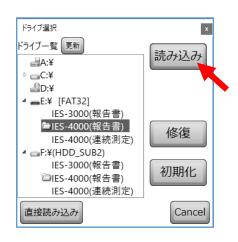
フォルダの内容は可能な限り修復を試みますが、破損の状態によっては回復できずに失われることがあります。

5-2-4 読み込み

5-2-4-1 ドライブ一覧から選択

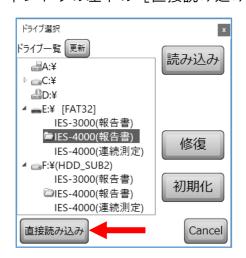
読み込みをおこないたい報告書保存フォルダが 見つかった場合、その報告書用保存フォルダを 選択すると [読み込み] ボタンが有効になりま す。

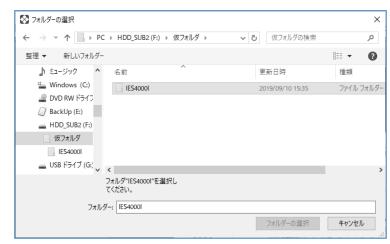
[読み込み] ボタンをクリックすると、報告書フォルダの読み込みがおこなわれます。



5-2-4-2 任意の場所から選択

検索された一覧に読み込みをおこないたい報告書保存フォルダが見つからない場合は、既 定のフォルダ以外に保存されていることが考えられます。その場合は既定のフォルダ以外 の場所に保存されている報告書作成用の情報フォルダを選んで読み込みをおこないます。 ウィンドウの左下の[直接読み込み]ボタンをクリックします。





フォルダ選択のダイアログが表示されますので、保存フォルダを探して選択してください。 選択したフォルダが IES保存フォルダであると判定された場合は [OK] ボタンが有効になり ます。 [OK] ボタンをクリックすることで読み込みがおこなわれます。

5-2-5 建築物一覧の表示



報告書フォルダを読み込みすると登録済みの建築物を測定数と最終測定日時を含む一覧で表示します。測定をおこなう作業者や、建築物の情報の登録・削除等の作業をおこないたい場合には[管理]ボタンをクリックし、管理画面を表示しておこないます。

5-3 作業者登録

5-3-1 作業者の追加

[追加] ボタンをクリックすると作業者を 最大100人まで追加できます。



5-3-2 作業者の削除

[削除] ボタンをクリックすると一覧で選択されている作業者を削除します。

5-3-3 作業者の表示順変更

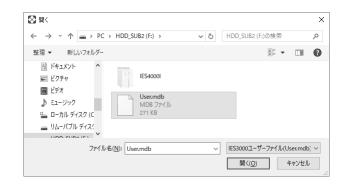
上下の矢印をクリックすると選択されている作業者の並びが上下に移動します。 または選択した作業者をマウスのドラッグ&ドロップで任意の並びに移動できます。

5-3-4 作業者のインポート

IES-3000の報告書作成プログラム(IES3000IRP)で作業者を登録していた記録ファイルがある場合に、そのファイルから作業者を取り込めます。

[インポート] ボタンをクリックするとファイル選択ダイアログが表示されます。 IES-3000用の記録ファイルを選択して開いてください。

標準のファイル名は「User.mdb」です。



取り込みが成功すると右図のウィンドウが表示されます。

取り込みをおこなうときに現在の登録済みの作業者IDと重複するIDの作業者がIES-3000の記録ファイルにも存在している場合、どちらか一方のみを登録することが可能です。

「既存との重複時の処理」でどちらを残すか選択します。「重複は無視」の時は登録済みの名前を、「重複は上書き」を選ぶとIES-3000での名前を登録します。



「読み込み」ボタンをクリックすると登録処理が実行されます。

「全体を読み込み」を選んでいると一覧に表示された作業者全てを、「選択のみ読み込み」 を選んでいる場合は一覧で選択している1名だけが登録処理されます。

5-3-5 作業者の基本情報編集

作業者のDには重複しない6桁までの数値を入力できます。

作業者名は半角で20字(全角で10字相当)まで入力できます。漢字等も入力可能ですが、 IES本体が認識できない文字の場合は正しく表示できないことがあります。

5-4 建築物登録

5-4-1 建築物の追加

[追加] ボタンをクリックすると建築物を 最大200物件まで追加できます。



5-4-2 建築物の削除

[削除] ボタンをクリックすると建築物一覧で選択されている建築物を削除します。 保存されている測定記録も削除されるので注意してください。

5-4-3 建築物の複製

建築物一覧を選択し、右クリックして表示されるメニューで [コピー] をおこなうと測定場所と測定順がクリップボードにコピーされます。次に、複写先の建築物を選択して同様に貼り付けをおこなうと、コピー元の測定場所と測定順が複写されます。

●建物番号と建物名称は複写されません。

5-4-4 建築物の表示順変更

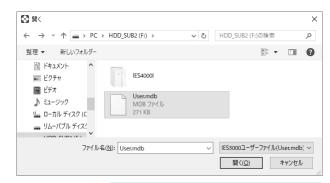
上下の矢印をクリックすると選択されている建築物の並びが上下に移動します。 または選択した建築物をマウスのドラッグ&ドロップで任意の並びに移動できます。

5-4-5 建築物のインポート

IES-3000の報告書作成プログラム (IES3000IRP) で建築物を登録していた記録ファイルがある場合に、そのファイルから建築物を取り込めます。

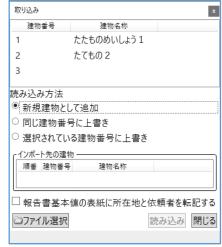
[インポート] ボタンをクリックするとファイル選択ダイアログが表示されます。 IES-3000用の記録ファイルを選択して開いてください。

標準のファイル名は「User.mdb」です。



現在の登録済みの建物番号と重複する建築物が IES-3000の記録ファイルにも存在している場合、 どちらか一方のみを登録することが可能です。

- O 新規建物として追加 新しい建物番号を追加して登録をおこないます。
- 同じ建物番号に上書き 同じ建物番号の建築物に上書きして登録をおこないます。
- 選択されている建物番号に上書き 建築物一覧で選択されている登録済みの建築物に上 書きして登録をおこないます。



既存の登録済み建築物が上書きされる場合は、インポート先の建物に上書きされる建築物が表示されます。「読み込み」ボタンをクリックすると登録処理が実行されます。

5-5 建築物の情報編集

5-5-1 建築物の基本情報編集

建物番号 0	建物名称	
測定場所 🗐 🔒 👢	順路消去順路自動割り当て	

建築物一覧で選択されている建築物の建物番号と建物名称を入力できます。

建物番号は重複しない10桁までの数値を入力できます。

建物名称は半角で24字(全角で12字相当)まで入力できます。漢字等も入力可能ですが、 IES本体が認識できない文字の場合は正しく表示できないことがあります。

5-5-2 建築物の測定場所(測定ポイント)情報編集

建物和测定均	番号 12 場所 🕞		てものめい1 順路自動割り当て		
有効	ポイント	階数 測定場所名1	測定場所名2	1回目 2回目 3回目	^
✓	0	0 屋外	玄関前	+ 1 4	
✓	1	0 玄関	ロビー	+ 2 5	
	2	0 事務室1	入口A		
✓	3	0 事務室 2	入口B	+ 3 6	

有効	チェックを入れると利用可能な測定場所として有効にできます。
	ここで有効にしない場合は、IES本体で表示されなくなったり、報告書
	の編集時に表示されなくなったりする場合があります。しかし、表示さ
	れなくなるだけでIESでの測定はおこなうことは可能です。
	順路設定してある場合は、無効にできなくなります。
ポイント	IES本体ではこの順番で表示されます。
階数	測定場所の階数を入力します。階数欄をクリックするとA~Zと-9~99
	の一覧が表示されて選択をおこなえます。
	有効 ポイント 階数 測定場所名1 測定場所名2 1回目 2回目 3回目 図
測定場所名	測定場所の名前や説明を半角で24字(全角で12字相当)まで入力でき
1/2	ます。漢字等も入力可能ですが、IES本体が認識できない文字の場合は
,	正しく表示できないことがあります。
+	有効としてチェックされている場所で、3回分の順路が登録されていな
	い場合にボタンが表示されます。
	クリックした順に測定順路が登録されます。
1/2/3回目	測定する予定の順路の順番が表示されます。

5-5-3 建築物の測定順路の編集

順路設定は予定であり、予定外の順番での測定をおこなうことは可能です。

5-5-3-1 個別登録

一覧に表示される緑色の | + | ボタンをクリックした順に測定順路が登録されます。

5-5-3-2 自動登録(並び順)

1回から3回までの繰り返し測定をおこなう予定の場合、「順路自動割り当て」ボタンから繰 り返し回数を指定して、自動登録がおこなえます。

登録順は一覧の並び順で割り振られますので、一覧のタイトルをクリックして並び替えを おこなうか、上下移動で並び替えをおこなっておく必要があります。

5-5-3-3 自動登録(測定記録順)

建築物が測定済みで、その測定順を今後の順路としたい場合に「順路自動割り当て」ボタン から [測定記録の順路に合わせる] で順路として登録がおこなえます。

5-5-3-4 順路消去

測定順をすべて消去して最初から順番登録をやり直せます。

●個別に順路削除することはできません。

5-5-4 建築物の情報の印刷



■ ボタンで建築物の測定場所と測定順路の印刷がおこなえます。

5-5-5 測定記録の消去



建築物一覧で選択されている建築物に測定記録が含まれている場合、 「測定記録消去〕 ボタンで測定記録のみ消去できます。建物番号・名称・場所・順路は消去されません。

消去すると測定記録は元に戻せなくなります。

5-6 登録業者登録

5-6-1 登録業者の追加

[追加] ボタンをクリックすると登録業者を 追加できます。



5-6-2 登録業者の削除

[削除] ボタンをクリックすると一覧で選択されている登録業者を削除します。

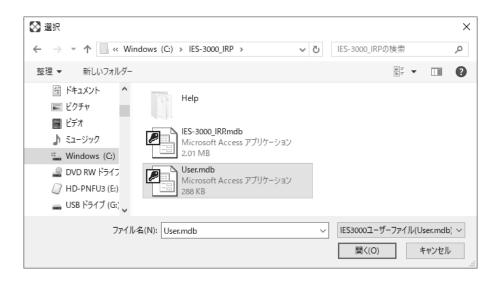
5-6-3 登録業者の表示順変更

一覧で業者をマウスで選択してからドラッグ&ドロップで任意の並びに移動できます。

5-6-4 登録業者のインポート

IES-3000の報告書作成プログラム (IES3000IRP) で登録業者を登録していた記録ファイルがある場合に、そのファイルから登録業者を取り込めます。

[インポート] ボタンをクリックするとファイル選択ダイアログが表示されます。 IES-3000用の記録ファイルを選択して開いてください。 標準のファイル名は「User.mdb」です。



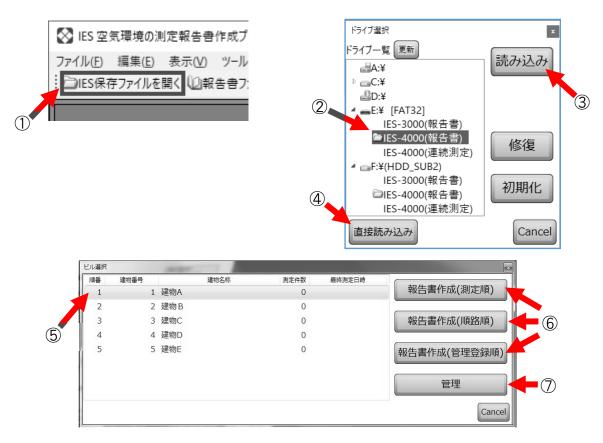
インポートするファイルを選択して開くと、すぐに登録業者の最下段にインポートした業者が追加されます。

6 報告書作成

6-1 作成

6-1-1 測定済みの記録からの新規作成

USBメモリに保存されているIES本体が読み書きできる形式の保存ファイルから報告書を作成します。



- 「IES保存ファイルを開く」をクリックします。
- ② 一覧からドライブ内で見つかった報告書フォルダを選択します。
- ③ [読み込み] ボタンをクリックし、一覧から読み込みます。
- ④ 一覧にない場合は [直接読み込み] ボタンで保存フォルダを探して開きます。
- ⑤ 保存フォルダ内の建築物一覧から報告書を作成したい建築物を選択します。
- ⑥ 測定した順番か、登録されている順路順か、管理登録順かを選んで報告書を作成します。 または ⑦ [管理] を選び建築物管理画面を表示して、⑧ [報告書作成] で作成も可能です。



6-1-2 既存の報告書の編集

すでに報告書形式として保存しているファイルの報告書を、メニューもしくは標準ツール バーの [保存ファイルを開く] で開きます。

あるいはエクスプローラーでファイルをダブルクリックしても開くことができます。

アイコンをダブルクリックすると起動でき ます。

アイコンの大きさは表示設定によって変化 します。

また、タスクバーにピン止めしている場合や実行中のタスクバーで右クリックをすると表示される最近使った報告書ファイルの一覧からも開くこともできます。



◆ IESView

√3 タスクバーからピン留めを外す

X すべてのウィンドウを閉じる

6-2 編集

6-2-1 表紙

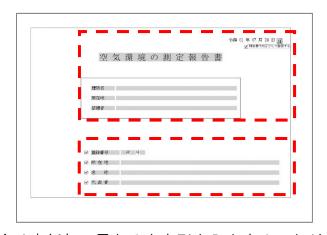
6-2-1-1 項目編集

背景色が水色になっている箇所に、自由に 文字を入力することが可能です。

●印刷時には水色は印刷されません。

項目の多くは「報告書基本値保存」で建築物 固有の値として保存しておき、次に報告書 を作成するときにも反映されるようにする ことが可能です。

表紙上段の入力部は、その報告書の表紙で 共通になります。



下段の入力部は、表紙を複数枚にしている場合は表紙毎に異なる文字列を入力することが可能です。

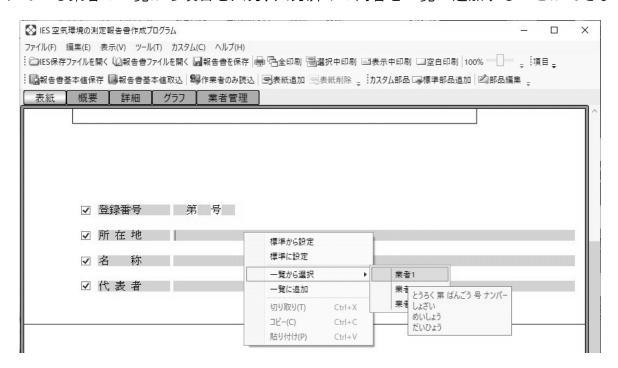
6-2-1-2 登録業者項目表示

表紙下段の4項目は左のチェックボックス を外すことで表示しないようにできます。

☑ 登録番号 1 第2 号3☑ 名 称 めいしょう☑ 代表者 だいひょうしゃめい

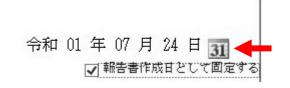
6-2-1-3 登録業者項目の入力と登録

表紙下段の4項目の付近の空いている箇所を右クリックすると表示されるメニューで、登録されている業者の一覧から項目を入力、入力済みの内容を一覧に追加することができます。



6-2-1-4 作成日編集

表紙右上の日付は、報告書を作成した日になります。 「報告書作成日として固定する」にチェックされていない場合は、報告書を開いた日付になります。



日付の右にあるボタンをクリックするとカレンダーが表示され、変更することが可能です。 中央日付部分で選択された日付が設定されます。

「今日」と表示されている部分をクリックすると今日の日付が設定されます。



【 2019 】 1 2 3 4 5 6 7 8 8 9 10 11 12 今日 2019/08/06 ☑ gg yy 年 MM 月 dd 日 ▽ 要紙と表紙以外の日付の書式を別にする



日付表示

月表示

年表示

オト
 カレンダーの表示によって以下の動作になります。
 日付表示:月を前後に移動します。 月表示:年を前後に移動します。
 年表示:年を10年分前後に移動します。

 オトの間 クリックすると日付表示 → 月表示 → 年表示へと切り替えることができます。日付表示に戻したい場合は「今日」と表示されている部分をクリックするか、任意の年と月をクリックすることで日付表示にすることができます。

○日付の書式設定

「今日」と表示されている部分の下段で、日付の書式を 設定することができます。

左側のチェックボックスにチェックを入れると和暦になり、外すと西暦になります。

右側のプルダウンをクリックして、表示形式を選択し、 日付の書式を変更します。

4	2019年7月				•	
日	月	火	水	木	金	±
30	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10

今日 2019/07/24

☑ gg yy 年 MM 月 dd 日

☑ yyyy / MM / dd yyyy 年 MM 月 dd 日 gg yy / MM / dd

gg yy 年 MM 月 dd 日

gg yy年 MM 月 dd 日

プルダウンから選択できる表示形式の表示例「2019年8月6日の場合」

チェック ボックス	表示形式	表示例
	yyyy / MM / dd	2019 / 08 / 06 ※1
	yyyy 年 MM 月 dd 日	2019 年 08 月 06日 ※1
\checkmark	gg yy / MM / dd	令和 01 / 08 / 06 (和暦)
	gg yy / MM / dd	西暦 19 / 08 / 06 (西暦)
\checkmark	gg yy 年 MM 月 dd 日	令和 01 年 08 月 06 日 (和暦)
	gg yy 年 MM 月 dd 日	西暦 19 年 08 月 06 日 (西暦)
\checkmark	gg yy年 MM 月 dd 日	令和 元 年 08 月 06 日 (和暦) ※2
	gg yy年 MM 月 dd 日	西暦 19 年 08 月 06 日 (西暦)

- ※1 和暦表示にする(チェックボックスにチェックを入れる)と正しく表示できません。
- ※2 各元号の1年目が元年となります。

また、日付の表示形式を直接編集することもできます。

日付の表示形式の所にカーソルを移動し、下 記の英字に変更・入力すると、日付の表示を 変更することができます。



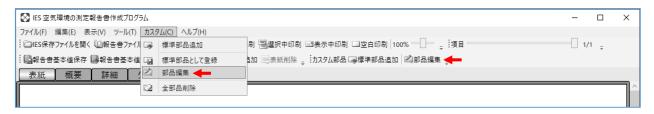
gg	元号(ただしWindowsに登録されている元号の場合のみ)		
уу	和暦年の下 2桁で表示	уууу	西暦 4桁で表示
М	月を1桁か2桁で表示	MM	月を 2桁で表示
d	日を1桁か2桁で表示	dd	日を 2桁で表示

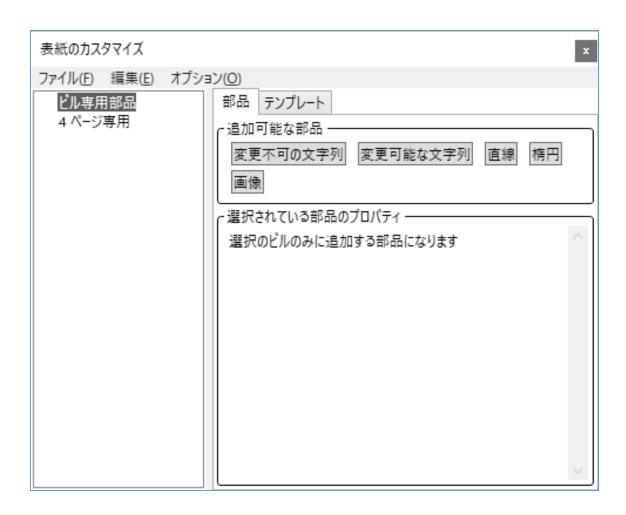
d日やdd日の後ろに	曜日だけを表示	d日やdd日の後ろに	*曜日 と表示
「ddd」と入力		「dddd」と入力	

6-2-2 表紙のカスタマイズ

メニューの [カスタム] → [部品編集] またはツールバーのカスタム部品内の [部品編集] をクリックすると「表紙のカスタマイズ」画面が表示されます。この画面で、表紙上に文字 列や画像などを追加・編集することができます。

なお、表紙ページ以外ではこの画面を開くことはできません。





6-2-2-1 部品の属性の選択

「ビル専用部品」または「〇ページ専用※1」をクリックして、追加する部品の属性を選択することができます。

ビル専用部品	複数ある表紙に、共通した部品を追加することができます。
〇ページ専用 ※1	表示中の表紙にのみに反映される部品を追加することができます。

※1 〇には現在表示させている表紙のページが表示されます。

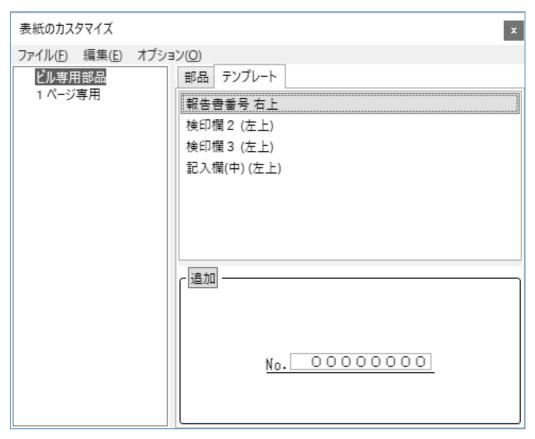
6-2-2-2 部品の追加

[部品] →「追加可能な部品」内の追加したい部品のボタンをクリックすることで部品が 追加されます。

変更不可の文字列	表紙のカスタマイズ画面でのみ変更可能な文字列を追加します。	
変更可能な文字列	表紙のカスタマイズ画面および表紙ページから変更可能な文字列	
	を追加します。	
直線	直線(斜線)を追加します。	
楕円	横に長い楕円を追加します。	
画像	任意の画像データを追加します。	

6-2-2-3 テンプレートの追加

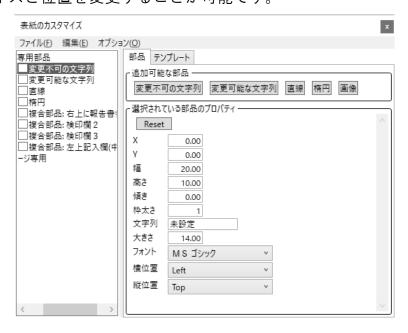
[テンプレート]内の追加したいテンプレートをクリックし、下の[追加]ボタンをクリックするとテンプレートが追加されます。



報告書番号 右上	表紙ページで変更可能な報告書番号欄を表紙の右上に追加し
	ます。
検印欄2(左上)	表紙ページで項目欄が変更可能な2連の検印欄を表紙の左上に
	追加します。
検印欄3(左上)	表紙ページで項目欄が変更可能な3連の検印欄を表紙の左上に
	追加します。
記入欄(中)(左上)	表紙ページで変更可能な記入欄を表紙の左上に追加します。

6-2-2-4 選択されている部品のプロパティ

表紙のカスタマイズ画面左側の一覧から任意の部品をクリックすると、「選択されている 部品のプロパティ」が右側に表示され部品のサイズや位置、文字列などを変更することが 可能です。また、表紙のカスタマイズ画面を表示している間は、直接部品をドラッグする ことで部品のサイズと位置を変更することが可能です。

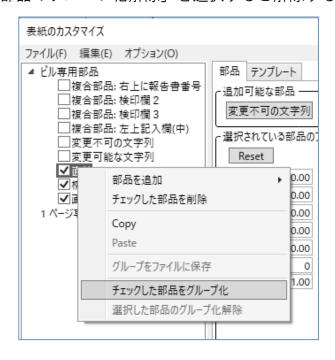


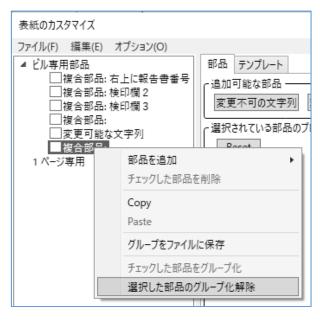
Reset	部品を追加したときの初期状態に戻します。
Χ	部品左上の角を基準としてX座標を指定できます。
	Xが0.00のとき、部品は表紙の左端に移動します。
Υ	部品左上の角を基準としてY座標を指定できます。
	Yが0.00のとき、部品は表紙の上端に移動します。
幅	部品の幅を指定できます。
高さ	部品の高さを指定できます。
傾き	部品の傾きを指定できます。
枠太さ	部品を囲う枠の太さを指定できます。
文字列(文字列部品のみ)	あらかじめ表示される文字列を指定できます。
大きさ(文字列部品のみ)	文字列の大きさを指定できます。
フォント(文字列部品のみ)	フォントの種類を指定できます。
横位置(文字列部品のみ)	文字列の横方向の揃え方を指定できます。
縦位置(文字列部品のみ)	文字列の縦方向の揃え方を指定できます。
太さ(直線・楕円のみ)	線の太さを指定できます。
破線(直線のみ)	チェックを入れると直線を破線に変更できます。
反転(直線のみ)	チェックを入れると直線を左右反転できます。
グループ名(複合部品のみ)	画像のカスタマイズ画面でのみ表示される、複合部品の
	名称を指定できます。
拡縮処理(画像のみ)	画像の拡縮処理を指定できます。
画像選択(画像のみ)	追加した画像を別の画像に選択できます。

6-2-2-5 部品の複合化

複合化したい部品のチェックボックスにチェックを入れ、右クリックして [チェックした 部品をグループ化]を選択すると複数の部品を1つの部品とすることができます。

複合化を解除する場合は、解除したい複合部品を選択してから右クリックして[選択した 部品のグループ化解除]を選択すると解除することができます。

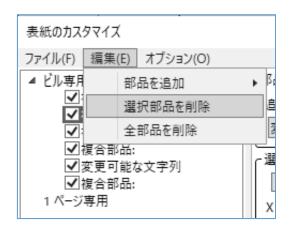




6-2-2-6 部品の削除

削除したい部品のチェックボックスにチェックを入れ、メニューの[編集]→[選択部品を削除]をクリックするとチェックを入れた部品を削除することができます。

編集中の全ての部品を削除したい場合は、メニューの[編集]→[全部品を削除]をクリックすることで部品をすべて削除することができます。



6-2-2-7 編集した部品の保存

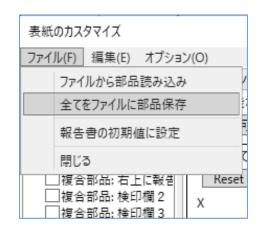
〇1つの複合部品を保存する場合

保存したい複合部品を右クリックして [グループをファイルに保存]を選択 することで複合部品をIES4000報告書 カスタム部品(*.ies4000custom)とし て保存することができます。



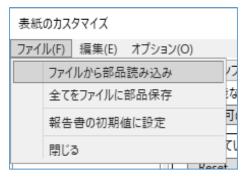
〇 編集中の全ての部品を保存する場合

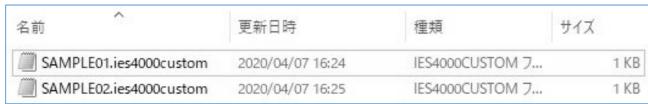
メニューの [ファイル] → [全てをファイルに部品保存]をクリックすることで部品・複合部品、ビル専用部品・ページ専用部品問わず全ての部品をIES4000報告書カスタム部品(*.ies4000custom)として保存することができます。



6-2-2-8 部品の読み込み

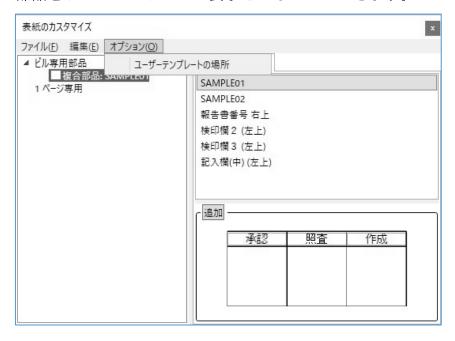
メニューの $[ファイル] \rightarrow [ファイルから部品読み込み]$ をクリックし、読み込みたい ES4000 報告書カスタム部品(*.ies4000custom)を選択することで部品を追加することができます。





6-2-2-9 ユーザーテンプレート

メニューの [オプション] → [ユーザーテンプレートの場所] をクリックし、作成した ES4000報告書カスタム部品 (*.ies4000custom) が保存されているフォルダを指定することで、作成した部品をテンプレートとして表示させることができます。



6-2-3 概要

6-2-3-1 項目編集

背景色が水色になっている箇所に、自由に 文字を入力することが可能です。

●印刷時には水色は印刷されません。

6-2-3-2 建築物名称

建築物名称は表紙で入力した建物名が表示されます。

6-2-3-3 測定年月日

測定年月日は欄の右端のボタンをクリック するとカレンダーが表示され表紙の作成日 編集と同様に変更することが可能です。

建築物名称		
測定年月日	平成 26 年 10 月 21 日	31
実施者		~
補助者		~
補助者		~
補助者		~
	さぎょうしゃ1	
	なまえ	
	しめい	

6-2-3-4 実施者·補助者

実施者と補助者を記入できます。

欄の右端をクリックすると各種登録作業の作業者登録(P23)で登録した作業者の一覧が表示され、選択した作業者名が入力されます。

[報告書ファイルを開く]から報告書を作成していない場合、登録されている作業者がありません。その場合は、ツールバーの[作業者のみ読込]で既存の報告書フォルダに登録されている作業者を参照することができます。

6-2-3-5 検印欄編集

メニューの[編集]→[概要]または、ツールバーの[検印欄追加]/[検印欄削除]をクリックすると、概要ページの左上に検印欄を追加できます。

追加は右方向へおこなわれ、削除は右側 からおこなわれます。削除すると検印の 文字は戻せなくなります。

空気環境調査概要

照査	
	査別

建築物環境衛生管理基準 測定値			色值	
測定項目		基準値	最高値	最低値
温度	瞬	$17\sim28^{\circ}\mathrm{C}$	29.6℃	0.1℃

6-2-3-6 基準値変更

建築物環	築物環境衛生管理基準 測定値			不適箇所数 /	
測定項目		基準値 最高値 最低値		/ 測定箇所数	
温度		$17\sim28$ °C	29. 6℃	0.1℃	186 291
相対湿度	瞬	$40\sim70\mathrm{\%RH}$	100.0%RH	0.3%RH	201 291
気流	間	0.5 m/sec以下	0.60m/sec	<0.05m/sec	42 291
照度	値	$0 \sim 1000000 1x$	9971x	41x	0 291
騒音		1000 db以下	30. 0db	0.0db	0 291
二酸化炭素 (CO2)	平	1000 ppm以下	1815ppm	172ppm	53 97
一酸化炭素 (CO)	均	10 ppm以下	16.4ppm	1.7ppm	49 97
浮遊粉じん量	値	0.15 mg/m³以下	0.313mg/m^3	$0.031 \mathrm{mg/m^3}$	62 97

基準値列の範囲「A~B」は A以上 B以下 を合格範囲とみなします。 基準値列の範囲「Cxxx以下」は C以下 を合格範囲とみなします。

入力された基準値を元に不適箇所数が集計されます。

表示される値は表示桁以下で丸めがおこなわれます。そのため測定値が表示桁数以下の値 を持つ場合は、表示桁以下のわずかな誤差で合否判定に影響がある場合があります。

基準値が瞬時値となっている項目は、各測定場所で複数回測定していても、それぞれの測定値で合否判定をおこないます。たとえば、3回測定していて1回目と2回目は合格、3回目は不合格であった場合には、不適箇所数/測定箇所数は1/3となります。

基準値が平均値となっている項目は、各測定場所で複数回測定している場合は、**各測定場所での平均値**を合否判定します。たとえば、3回測定していて1回目と2回目は合格、3回目は不合格であったが、平均値では合格範囲に入っている場合には、不適箇所数/測定箇所数は0/1となります。

6-2-3-7 概評 • 特記事項入力

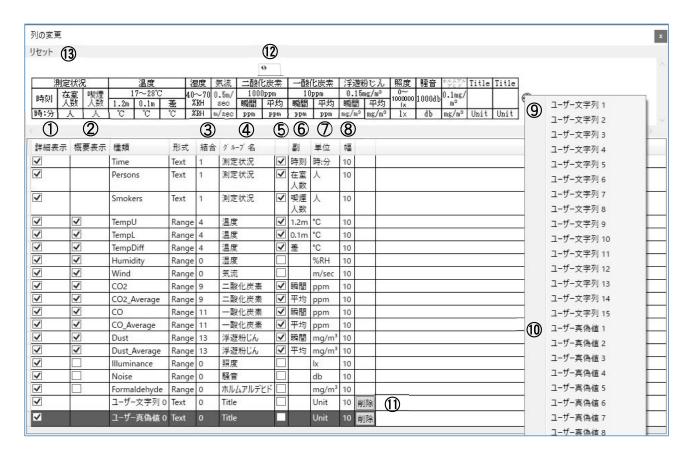
概評と特記事項にも直接文字入力が可能ですが、あらかじめ登録してある文章を選択して 入力することも可能です。



概評と特記事項に入力する時に、挿入したい箇所でマウスの右クリックをすると表示されるメニューの[選択]という項目の次の階層に入力候補の一覧が表示され、選択した文章が 挿入されます。

6-2-4 項目表示オプション

報告書を開いている状態でメニューの[編集]から[項目表示 Option]をクリックします。概要ページと詳細ページの測定項目の表示/非表示、項目の追加および編集をおこなうことができます。



 (2) 概要表示		=+ /m -+	チェックボックスの付け外しで詳細ページの測定項目の表
② 概要表示 チェックボックスの付け外しで概要ページの測定項目の表示/非表示を設定できます。 ③ 結合 上下に隣接する項目の結合の値を同じ値にすることでグループ名を結合することができます (1・2・1といった間に異なる数字がある場合は結合しません)。また、結合の値に0を入力することで結合させなくすることができます。 ④ グループ名 形式が「Text」となっている項目のみ変更が可能です。 チェックボックス チェックボックスの付け外しで副の欄に入力された文字列の表示/非表示を設定できます。基準値がある項目はチェックを入れるとセルが2分割されます。 ⑥ 副 項目表示オプション画面上部の表の下から2番目に表示される文字列の入力を行うことができます。 ボナックボックスにチェックが入っていない場合は表示される文字列の入力を行うことができます。 東ェックボックスにチェックが入っていない場合は表示されません。 ⑦ 単位 形式がTextの項目だけ変更することができます。項目表示オプション上部にある表の縦線をドラッグすることにより幅の長さを変更することができます。 ⑧ ユーザー文字列の~15 項目表示オプション画面上部の表の右端の十をクリックし、ユーザー文字列を通知することができます。ただし、測定値が空白のところには文字列を入力することができません。 ⑩ ユーザー真偽値のところには文字列を入力することができません。 項目表示オプション画面上部の表の右端の十をクリックし、ユーザー真偽値を選択することで詳細ページにクリックするとチェックが入る列を作成することができます。た	1	詳細表示	
示/非表示を設定できます。	<u> </u>	—————————————————————————————————————	
(3) 結合 上下に隣接する項目の結合の値を同じ値にすることでグループ名を結合することができます(1・2・1といった間に異なる数字がある場合は結合しません)。また、結合の値に0を入力することで結合させなくすることができます。結合した際のグループ名は、結合した項目の中の1番上のグループ名が表示されます。 (4) グループ名 形式が「Text」となっている項目のみ変更が可能です。 (5) チェックボックス チェックボックスの付け外しで副の欄に入力された文字列の表示/非表示を設定できます。基準値がある項目はチェックを入れるとセルが2分割されます。 (6) 副 項目表示オプション画面上部の表の下から2番目に表示される文字列の入力を行うことができます。チェックボックスにチェックが入っていない場合は表示されません。 (7) 単位 形式がTextの項目だけ変更することができます。項目表示オプション画面上部の表の最下段の部分を変更することができます。 (8) 幅の中の値を変更するか、項目表示オプション上部にある表の縦線をドラッグすることにより幅の長さを変更することができます。 (9) ユーザー文字列のつ~15 項目表示オプション画面上部の表の右端の十をクリックし、ユーザー文字列を選択することができません。 (10) ユーザー真偽値のところには文字列を入力することができません。 (10) ユーザー真偽値のところには文字列を入力することができます。ただし、測定値が空白のところには文字列を入力することができません。 (10) ユーザー真偽値を選択することで詳細ページにクリックするとチェックが入る列を作成することができます。た		ベラ 衣 小	
□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □		// + ∧	
なる数字がある場合は結合しません)。 また、結合の値に0を入力することで結合させなくすることができます。 結合した際のグループ名は、結合した項目の中の1番上のグループ名が表示されます。 ④ グループ名 形式が「Text」となっている項目のみ変更が可能です。 チェックボックス チェックボックスの付け外しで副の欄に入力された文字列の表示/非表示を設定できます。基準値がある項目はチェックを入れるとセルが2分割されます。 ⑥ 副 項目表示オプション画面上部の表の下から2番目に表示される文字列の入力を行うことができます。チェックボックスにチェックが入っていない場合は表示されません。 形式がTextの項目だけ変更することができます。項目表示オプション画面上部の表の最下段の部分を変更することができます。 「個の中の値を変更するか、項目表示オプション上部にある表の縦線をドラッグすることにより幅の長さを変更することができます。 「項目表示オプション画面上部の表の右端の十をクリックし、ユーザー文字列を選択することで詳細ページに文字列が入力できる列を追加することができます。ただし、測定値が空白のところには文字列を入力することができません。 「の ユーザー真偽値 できます。ただし、別定値を選択することで詳細ページにクリックするとチェックが入る列を作成することができます。た	(3)	柏台	
また、結合の値に0を入力することで結合させなくすることができます。 結合した際のグループ名は、結合した項目の中の1番上のグループ名が表示されます。 ④ グループ名 形式が「Text」となっている項目のみ変更が可能です。 チェックボックス チェックボックスの付け外しで副の欄に入力された文字列の表示/非表示を設定できます。基準値がある項目はチェックを入れるとセルが2分割されます。 ⑤ 副 項目表示オプション画面上部の表の下から2番目に表示される文字列の入力を行うことができます。チェックボックスにチェックが入っていない場合は表示されません。 形式がTextの項目だけ変更することができます。項目表示オプション画面上部の表の最下段の部分を変更することができます。 幅の中の値を変更するか、項目表示オプション上部にある表の縦線をドラッグすることにより幅の長さを変更することができます。 「項目表示オプション画面上部の表の右端の十をクリックし、ユーザー文字列を選択することで詳細ページに文字列が入力できる列を追加することができます。ただし、測定値が空白のところには文字列を入力することができません。 「の ユーザー真偽値 の~15 「項目表示オプション画面上部の表の右端の十をクリックし、ユーザー真偽値を選択することで詳細ページにクリックするとチェックが入る列を作成することができます。た			
ができます。 結合した際のグループ名は、結合した項目の中の1番上のグループ名が表示されます。 ④ グループ名 形式が「Text」となっている項目のみ変更が可能です。 チェックボックス チェックボックスの付け外しで副の欄に入力された文字列の表示/非表示を設定できます。基準値がある項目はチェックを入れるとセルが2分割されます。 項目表示オプション画面上部の表の下から2番目に表示される文字列の入力を行うことができます。 チェックボックスにチェックが入っていない場合は表示されません。 単位 形式がTextの項目だけ変更することができます。項目表示オプション画面上部の表の最下段の部分を変更することができます。 幅の中の値を変更するか、項目表示オプション上部にある表の縦線をドラッグすることにより幅の長さを変更することができます。 ⑤ ユーザー文字列 0~15 「項目表示オプション画面上部の表の右端の+をクリックし、ユーザー文字列を選択することができます。ただし、測定値が空白のところには文字列を入力することができません。 「の ユーザー真偽値の~15 「の コーザー真偽値 できます。ただし、コーザー真偽値を選択することができます。ただり、カオーをクリックし、ユーザー真偽値を選択することができません。			
 結合した際のグループ名は、結合した項目の中の1番上のグループ名が表示されます。 グループ名 形式が「Text」となっている項目のみ変更が可能です。 チェックボックス テェックボックスの付け外しで副の欄に入力された文字列の表示/非表示を設定できます。基準値がある項目はチェックを入れるとセルが2分割されます。			
(4) グループ名 形式が「Text」となっている項目のみ変更が可能です。 (5) チェックボックス チェックボックスの付け外しで副の欄に入力された文字列の表示/非表示を設定できます。基準値がある項目はチェックを入れるとセルが2分割されます。 (6) 副 項目表示オプション画面上部の表の下から2番目に表示される文字列の入力を行うことができます。チェックボックスにチェックが入っていない場合は表示されません。 (7) 単位 形式がTextの項目だけ変更することができます。項目表示オプション画面上部の表の最下段の部分を変更することができます。 (8) 幅 幅の中の値を変更するか、項目表示オプション上部にある表の縦線をドラッグすることにより幅の長さを変更することができます。 (9) ユーザー文字列のへ15 項目表示オプション画面上部の表の右端の+をクリックし、ユーザー文字列を選択することができます。ただし、測定値が空白のところには文字列を入力することができません。 (10) ユーザー真偽値ので15 ユーザー真偽値のところには文字列を入力することができません。 (10) コーザー真偽値ので15 フーザー真偽値を選択することで詳細ページにクリックするとチェックが入る列を作成することができます。た			
 ④ グループ名 形式が「Text」となっている項目のみ変更が可能です。 ⑤ チェックボックス の表示/非表示を設定できます。基準値がある項目はチェックを入れるとセルが2分割されます。 ⑥ 副 項目表示オプション画面上部の表の下から2番目に表示される文字列の入力を行うことができます。チェックボックスにチェックが入っていない場合は表示されません。 ⑦ 単位 形式がTextの項目だけ変更することができます。項目表示オプション画面上部の表の最下段の部分を変更することができます。 ⑥ 幅 幅の中の値を変更するか、項目表示オプション上部にある表の縦線をドラッグすることにより幅の長さを変更することができます。 ⑨ ユーザー文字列 項目表示オプション画面上部の表の右端の十をクリックし、ユーザー文字列が入力できる列を追加することができます。ただし、測定値が空白のところには文字列を入力することができません。 ⑩ ユーザー真偽値 の~15 項目表示オプション画面上部の表の右端の十をクリックし、ユーザー真偽値を選択することができません。 ⑩ ユーザー真偽値 の~15 			
⑤ チェックボックス チェックボックスの付け外しで副の欄に入力された文字列の表示/非表示を設定できます。基準値がある項目はチェックを入れるとセルが2分割されます。 ⑥ 副 項目表示オプション画面上部の表の下から2番目に表示される文字列の入力を行うことができます。チェックボックスにチェックが入っていない場合は表示されません。 ⑦ 単位 形式がTextの項目だけ変更することができます。項目表示オプション画面上部の表の最下段の部分を変更することができます。 ⑧ 幅の中の値を変更するか、項目表示オプション上部にある表の縦線をドラッグすることにより幅の長さを変更することができます。とができます。 ② ユーザー文字列 の~15 項目表示オプション画面上部の表の右端の十をクリックし、ユーザー文字列を選択することで詳細ページに文字列が入力できる列を追加することができます。ただし、測定値が空白のところには文字列を入力することができません。 ⑩ ユーザー真偽値のところには文字列を入力することができません。 ⑩ ユーザー真偽値を選択することで詳細ページにクリックするとチェックが入る列を作成することができます。た		LS	
の表示/非表示を設定できます。基準値がある項目はチェックを入れるとセルが2分割されます。 (6) 副 項目表示オプション画面上部の表の下から2番目に表示される文字列の入力を行うことができます。チェックボックスにチェックが入っていない場合は表示されません。 (7) 単位 形式がTextの項目だけ変更することができます。項目表示オプション画面上部の表の最下段の部分を変更することができます。 (8) 幅 幅の中の値を変更するか、項目表示オプション上部にある表の縦線をドラッグすることにより幅の長さを変更することができます。 (9) ユーザー文字列 の~15 に、ユーザー文字列を選択することで詳細ページに文字列が入力できる列を追加することができます。ただし、測定値が空白のところには文字列を入力することができません。 (10) ユーザー真偽値 0~15 項目表示オプション画面上部の表の右端の十をクリックし、ユーザー真偽値を選択することができます。ただし、別定値が空白のところには文字列を入力することができません。 (10) ユーザー真偽値 0~15 項目表示オプション画面上部の表の右端の十をクリックし、ユーザー真偽値を選択することで詳細ページにクリックするとチェックが入る列を作成することができます。た	(4)	グルーフ名	
の でき入れるとセルが2分割されます。	5	チェックボックス	
 ⑥ 副 項目表示オプション画面上部の表の下から2番目に表示される文字列の入力を行うことができます。チェックボックスにチェックが入っていない場合は表示されません。 ⑦ 単位 形式がTextの項目だけ変更することができます。項目表示オプション画面上部の表の最下段の部分を変更することができます。 ⑧ 幅 幅の中の値を変更するか、項目表示オプション上部にある表の縦線をドラッグすることにより幅の長さを変更することができます。 ⑨ ユーザー文字列 項目表示オプション画面上部の表の右端の十をクリックし、ユーザー文字列を選択することで詳細ページに文字列が入力できる列を追加することができます。ただし、測定値が空白のところには文字列を入力することができません。 ⑩ ユーザー真偽値 0∼15 項目表示オプション画面上部の表の右端の十をクリックし、ユーザー真偽値を選択することで詳細ページにクリックするとチェックが入る列を作成することができます。た 			
れる文字列の入力を行うことができます。 チェックボックスにチェックが入っていない場合は表示されません。 ② 単位 形式がTextの項目だけ変更することができます。項目表示オプション画面上部の表の最下段の部分を変更することができます。 「幅の中の値を変更するか、項目表示オプション上部にある表の縦線をドラッグすることにより幅の長さを変更することができます。 ③ ユーザー文字列			
# チェックボックスにチェックが入っていない場合は表示されません。 単位 形式がTextの項目だけ変更することができます。項目表示オプション画面上部の表の最下段の部分を変更することができます。 幅の中の値を変更するか、項目表示オプション上部にある表の縦線をドラッグすることにより幅の長さを変更することができます。 項目表示オプション画面上部の表の右端の+をクリックし、ユーザー文字列を選択することで詳細ページに文字列が入力できる列を追加することができます。ただし、測定値が空白のところには文字列を入力することができません。 項目表示オプション画面上部の表の右端の+をクリックし、ユーザー真偽値を選択することで詳細ページにクリックするとチェックが入る列を作成することができます。た	6	副	
#位 形式がTextの項目だけ変更することができます。項目表示 オプション画面上部の表の最下段の部分を変更することが できます。 幅の中の値を変更するか、項目表示オプション上部にある 表の縦線をドラッグすることにより幅の長さを変更することができます。 項目表示オプション画面上部の表の右端の+をクリックし、ユーザー文字列を選択することで詳細ページに文字列が入力できる列を追加することができます。ただし、測定値が空白のところには文字列を入力することができません。 項目表示オプション画面上部の表の右端の+をクリックし、ユーザー真偽値を選択することで詳細ページにクリックするとチェックが入る列を作成することができます。た			
 単位 形式がTextの項目だけ変更することができます。項目表示オプション画面上部の表の最下段の部分を変更することができます。 個 幅の中の値を変更するか、項目表示オプション上部にある表の縦線をドラッグすることにより幅の長さを変更することができます。 ⑨ ユーザー文字列 の~15 項目表示オプション画面上部の表の右端の+をクリックし、ユーザー文字列を選択することで詳細ページに文字列が入力できる列を追加することができます。ただし、測定値が空白のところには文字列を入力することができません。 ⑩ ユーザー真偽値 の~15 項目表示オプション画面上部の表の右端の+をクリックし、ユーザー真偽値を選択することができます。ただし、別定値を変白のところには文字列を入力することができます。た 			
### オプション画面上部の表の最下段の部分を変更することができます。 個			
 できます。 幅 幅の中の値を変更するか、項目表示オプション上部にある表の縦線をドラッグすることにより幅の長さを変更することができます。 ⑨ ユーザー文字列 の~15 項目表示オプション画面上部の表の右端の+をクリックし、ユーザー文字列を選択することで詳細ページに文字列が入力できる列を追加することができます。ただし、測定値が空白のところには文字列を入力することができません。 ⑩ ユーザー真偽値 の~15 項目表示オプション画面上部の表の右端の+をクリックし、ユーザー真偽値を選択することで詳細ページにクリックするとチェックが入る列を作成することができます。た 	7	単位	
 個 幅の中の値を変更するか、項目表示オプション上部にある表の縦線をドラッグすることにより幅の長さを変更することができます。 ③ ユーザー文字列 0~15 項目表示オプション画面上部の表の右端の+をクリックし、ユーザー文字列を選択することで詳細ページに文字列が入力できる列を追加することができます。ただし、測定値が空白のところには文字列を入力することができません。 ⑩ ユーザー真偽値 0~15 項目表示オプション画面上部の表の右端の+をクリックし、ユーザー真偽値を選択することで詳細ページにクリックするとチェックが入る列を作成することができます。た 			
表の縦線をドラッグすることにより幅の長さを変更することができます。 ③ ユーザー文字列 0~15 項目表示オプション画面上部の表の右端の+をクリックし、ユーザー文字列を選択することで詳細ページに文字列が入力できる列を追加することができます。ただし、測定値が空白のところには文字列を入力することができません。 ④ ユーザー真偽値 0~15 項目表示オプション画面上部の表の右端の+をクリックし、ユーザー真偽値を選択することで詳細ページにクリックするとチェックが入る列を作成することができます。た			
とができます。 ③ ユーザー文字列 項目表示オプション画面上部の表の右端の+をクリック し、ユーザー文字列を選択することで詳細ページに文字列 が入力できる列を追加することができます。ただし、測定値 が空白のところには文字列を入力することができません。 ① ユーザー真偽値 の~15 項目表示オプション画面上部の表の右端の+をクリック し、ユーザー真偽値を選択することで詳細ページにクリックするとチェックが入る列を作成することができます。た	8	幅	幅の中の値を変更するか、項目表示オプション上部にある
 ③ ユーザー文字列 0~15 項目表示オプション画面上部の表の右端の+をクリック し、ユーザー文字列を選択することで詳細ページに文字列 が入力できる列を追加することができます。ただし、測定値 が空白のところには文字列を入力することができません。 ① ユーザー真偽値 0~15 ① ユーザー真偽値を選択することで詳細ページにクリック し、ユーザー真偽値を選択することで詳細ページにクリック クするとチェックが入る列を作成することができます。た 			表の縦線をドラッグすることにより幅の長さを変更するこ
○			とができます。
が入力できる列を追加することができます。ただし、測定値が空白のところには文字列を入力することができません。 ① ユーザー真偽値 項目表示オプション画面上部の表の右端の+をクリックし、ユーザー真偽値を選択することで詳細ページにクリックするとチェックが入る列を作成することができます。た	9	ユーザー文字列	項目表示オプション画面上部の表の右端の+をクリック
が空白のところには文字列を入力することができません。 ① ユーザー真偽値 項目表示オプション画面上部の表の右端の+をクリックし、ユーザー真偽値を選択することで詳細ページにクリックするとチェックが入る列を作成することができます。た		0~15	し、ユーザー文字列を選択することで詳細ページに文字列
10 ユーザー真偽値 項目表示オプション画面上部の表の右端の+をクリック し、ユーザー真偽値を選択することで詳細ページにクリッ クするとチェックが入る列を作成することができます。た			が入力できる列を追加することができます。ただし、測定値
0~15 し、ユーザー真偽値を選択することで詳細ページにクリックするとチェックが入る列を作成することができます。た			が空白のところには文字列を入力することができません。
クするとチェックが入る列を作成することができます。た	10	ユーザー真偽値	項目表示オプション画面上部の表の右端の+をクリック
		0~15	し、ユーザー真偽値を選択することで詳細ページにクリッ
だし、測定値が空白のところにはチェックの付け外しをす			クするとチェックが入る列を作成することができます。た
			だし、測定値が空白のところにはチェックの付け外しをす
ることができません。			ることができません。
11 削除 削除をクリックするとクリックしたユーザー文字列および	11)	削除	削除をクリックするとクリックしたユーザー文字列および
ユーザー真偽値を削除することができます。			ユーザー真偽値を削除することができます。
② ◀▶ マウスカーソルを ◀▶ に当てて ◀·▶ の形に変化した状態	12	♦	
でドラッグして動かすと項目の順番を変更することができ			でドラッグして動かすと項目の順番を変更することができ
ます。			ます。
③ リセット リセットをクリックすると項目表示オプションの設定を初	13	リセット	リセットをクリックすると項目表示オプションの設定を初
期値に戻すことができます。			期値に戻すことができます。

6-2-5 詳細

6-2-5-1 項目編集

	Ü	則定状況	2		温度	
測定場所	時刻	在室 人数	喫煙	1'	$7 \sim 28^{\circ}$	С
例足物別	中寸久小	人数	人数	1.2m	0.1m	差
	時:分	人	人	$^{\circ}$	$^{\circ}$	$^{\circ}$
01 (2階)	00:00	0	3			
2階 会議室						
02(3階) 3階 食堂	00:00	0	0	20.5	20. 1	0.3
3階	00:00	0	0	19.4	27. 2	-7.9
食堂 食堂	00:00	0	0	9.0	7. 7	1.3
03(4階)	00:00	0	0	18.3	21.0	-2.7

表組となっている各測定値をクリックすると測定値の編集を開始できます。 温度差と平均値は自動で計算がおこなわれるため入力はおこなえません。

●「詳細」では入力可能な項目を水色で表示していません。

この画面では未測定の箇所に入力をおこなうことはできません。測定箇所の追加をおこなうには記録編集でおこなってください。

入力が許可されている内容で入力されていないと赤枠が表示され、未確定状態となります。 ウィンドウ下部の状況メッセージを参考に修正してください。

6-2-5-2 備考入力

備考に入力する時に、挿入したい箇所を選択してマウスの右クリックをすると、表示される メニューの [選択] という項目の次の階層に入力候補の一覧が表示され、選択した文章が挿 入されます(概要の概評・特記事項入力をご参照ください)。

6-2-5-3 一部の測定値の表示について

測定値が一定値より小さい値の場合は数値の前に「<」記号がつくことがあります。 例えば、気流は測定器の測定下限が0.05m/sであるため、0.05未満は測定下限の<0.05という表記になります。一酸化炭素と浮遊粉じんも同様になります。

気流	二酸化炭素		一酸化炭素		浮遊粉じん	
0.5	1000ppm		1000ppm 10ppm		0.15mg/m^3	
m/s	瞬間	平均	瞬間	平均	瞬間	平均
m/s	ppm	ppm	ppm	ppm	mg/m³	mg/m³
<0.05	1		<0.1		<0.001	
0.06	2	2	0.2	0.2	<0.001	<0.001
0.10	3		0.3		0.002	

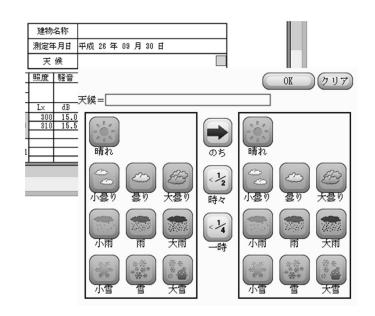
6-2-5-4 天候編集

天候欄の右端のボタンをクリックすると 天候の一覧ウィンドウが表示されます。

例:晴れのち曇り

左の [晴れ] ボタン 中央の [➡] のち 右の [曇り] ボタン

入力後に [OK] をクリックすると確定され、ウィンドウ外をクリックすると閉じられます。



6-2-5-5 書式変更

詳細の数値部分は概要で設定した範囲内にない場合の背景色と文字色を指定して表示することができます。設定は報告書の編集中に、メニューの[編集]→[報告書 Option] または、ツールバーの「範囲外書式] からおこないます。

○ 範囲外の文字の色

範囲外の値は指定の色で表示されます。

○ **範囲外の背景の色/範囲外の塗りつぶし** 指定の色でセルの背景が、塗りつぶしか 網掛けのいずれかで表示されます。透明に すると背景処理はおこなわれません。



6-2-6 グラフ

6-2-6-1 表示範囲変更

グラフの縦軸は各測定値の値軸です。

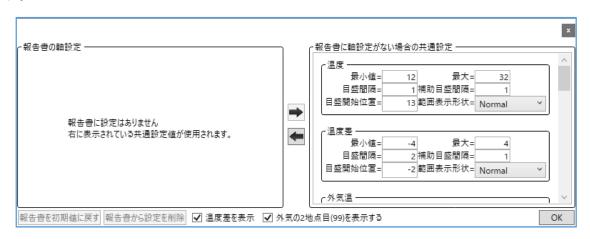
初期状態では IES-3000の報告書と同範囲となっていますが、測定値がグラフに収まらないと都合が悪い場合には、軸の範囲を変更することが可能です。

変更するにはグラフを表示させて、ツールバーの [グラフ設定] ボタンをクリックすると変更ウィンドウが表示されます。

設定は報告書毎の設定と建築物毎の設定とがあります。

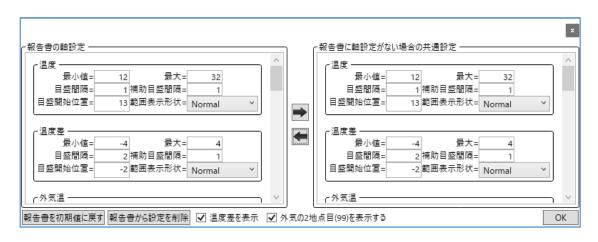
報告書毎の設定は報告書ファイルに記録されて、その報告書固有の設定となります。

建築物毎の設定はその建築物の新しい報告書を作成するときに適用される初期設定値となります。



上図の状態が初期状態になります。

中央の [◆] ボタンをクリックすると右側にある報告書毎の表示範囲設定を、左の報告書毎の表示範囲に複写します。



複写された左側の数値を変更することでグラフの縦軸範囲が変更されます。 報告書の軸設定は報告書ファイルに保存することで記録されます。

範囲変更が不要もしくはやり直しをおこないたい場合は、[報告書を初期値に戻す]または [報告書から設定を削除]で報告書の設定を戻してください。

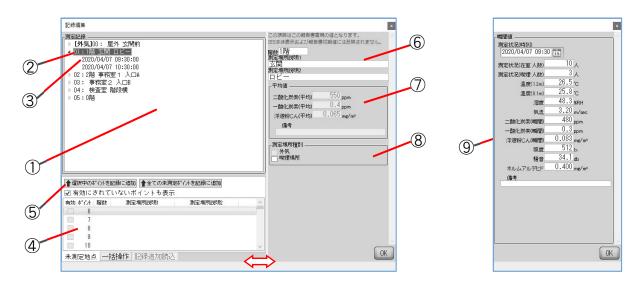
「報告書の軸設定」で設定された範囲設定を他の記録にも反映したいときは [➡] ボタンで 建築物毎の設定値に複写されます。

6-3 記録編集

6-3-1 測定場所の編集

ES本体で測定ができなかったなどで後から測定場所を手入力で追加したい、あるいは測りすぎたので余計な測定を削除する必要がある場合に、編集をすることが可能です。

詳細ページを表示させてツールバーの[記録編集]をクリックすると記録編集ウィンドウが表示されます。



⇔:マウスで幅を変更できます。

1	測定済み一覧 (ポイント)	現在の報告書で詳細に表示される測定済みの場所が一覧で表示されます。
2	測定済み場所	測定済みの測定場所。
3	測定記録	測定場所で測定した記録の一覧が下位に表示されます。
4	未測定場所一覧	測定済み一覧に所属していない、建築物管理画面で追加した建 築物の測定場所が表示されます。
5	追加ボタン	未測定場所一覧で選択している測定場所を上の測定済み一覧へ 追加します。あるいは表示中のすべての未測定場所を測定済み 一覧に追加します。
6	建築物入力	測定済み一覧で測定済み場所が選択されている時はその場所の 説明を編集できます。 ●ここで変更しても管理画面の登録には反映されません。
7	測定平均值	測定済み一覧で測定場所が選択されている場合、その場所の全 測定値の平均値が表示されます。
8	外気・喫煙場所	外気には自動でチェックされます。喫煙場所は任意にチェック することができます。
9	測定値	測定済み一覧で測定記録が選択されている場合、その測定記録 が表示され、値を変更することも可能です。

6-3-2 並べ替え

記録編集ウィンドウの測定済み一覧で、選択した測定場所あるいは測定記録をマウスのドラッグ&ドロップで任意の並びに移動できます。

ただし、測定場所の00と99は屋外測定に割り当てられているため、並び替えをおこなっても詳細とグラフでの位置は変わりません。

屋外測定が測定済み一覧の一番上にある場合は、詳細の一覧では最初に配置されます。

それ以外の場合は、詳細の一覧では最後に配置されます。

グラフでは各ページの右端に表示されます。

6-4 報告書基本値

測定結果から報告書を作成すると、都度新しい報告書が作成されます。そのままの状態では、 表示などの項目も再入力しなければならなくなります。

特に表紙に記載する内容の多くは建築物毎に毎回変更されるものではありません。

そこで報告書毎に変更されない箇所を基本値として保存しておくことができます。

この基本値を読み込むことで、新しい報告書の作成でも以前の報告書で入力された内容を 引き継ぐことが可能になります。

6-4-1 基本値として保存される内容

項目表示オプションおよび報告書オプションの設定が保存されます。

表紙は日付以外の入力可能項目と部品編集で作成したカスタム部品、追加した表紙が保存されます。

概要は実施者・概評・特記事項・測定機器以外の入力可能項目と実施・補助者数、検印欄の 設定が保存されます。

詳細は測定機器欄を自由入力欄にしたときの入力可能項目が保存されます。

グラフはグラフ設定の設定が保存されます。

6-4-2 保存

基本値は物件毎に保存します。そのため [IES保存ファイルを開く] から物件を選んで報告書を作成したときのみ、その物件の基本値として保存することができます。

[報告書ファイルを開く]では物件を指定していないため保存することはできません。

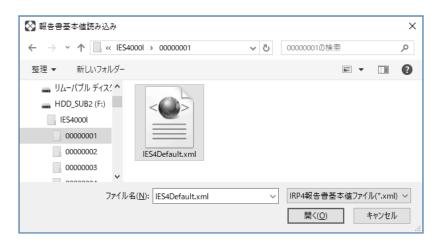
報告書の表紙と概要の検印欄に必要な入力ができたら、メニューの [ファイル] → [報告書基本値保存] もしくはツールバーの [報告書基本値保存] をクリックすると保存がおこなわれます。

あるいはオプションで報告書を閉じるときに「基本値を自動保存にする」と設定してある場合は、報告書を閉じるときに自動で保存されます。

6-4-3 読み込み

基本値は物件毎に保存されています。そのため [IES保存ファイルを開く] から物件を選んで報告書を作成したときのみ、その物件の基本値を自動で反映します。

基本値を保存していない物件では初期状態のままになります。



報告書ファイルから報告書を開いた場合や基本値が無い物件の場合には、他の物件の基本 値を取り込むことができます。

ツールバーの [報告書基本値取込] をクリックするとファイル選択ダイアログが表示されます。読み込みたいファイルを選択してください。

IES報告書保存フォルダ(IES4000I)以下にある複数のフォルダの中にある「IES4Default.xml」というファイルが基本値保存のファイルです。

6-5 概評候補

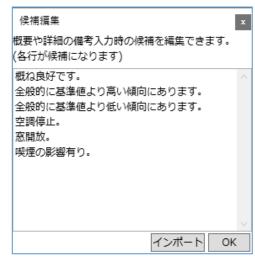
概要の概評と特記事項、詳細の備考欄には直接文字入力が可能ですが、あらかじめ登録して ある文章を選択して入力することも可能です。



メニューの [編集] または、右クリックメニューにある [候補編集] で一覧に表示される候補の入力ダイアログが表示されます。

表示されたダイアログに候補とする文字列を入力します。

入力されている各行が候補となります。



7 印刷

7-1 報告書印刷

メニューの[ファイル]→[印刷]または、ツールバーの印刷ボタンで印刷がおこなえます。 OSや接続されているプリンターによって異なる出力結果となる場合があります。

7-1-1 全印刷

現在開いている報告書の全ページを印刷します。

印刷前に右図の印刷選択ダイアログが表示され、印刷したいページを選ぶことが可能です。印刷したくないページはページ名の左のチェックを外してください。

表紙が複数ページある場合は、ページ毎に設定できます。

7-1-2 選択中印刷

現在開いている報告書の表紙・概要・詳細・グラフのうち、 表示されている種類のページを全て印刷します。

印刷選択 の利項目の設定 ② 空気環境の測定報告書 ② 1枚目 ② 空気環境調査概要 ② 環境測定結果 ② 温熱条件測定結果(グラフ) ② 空気清浄度測定結果(グラフ) ② 照度騒音測定結果(グラフ)

7-1-3 表示中印刷

作業領域に表示されている、そのままのページを1ページだけ印刷します。

7-1-4 空白印刷

何も入力されていない用紙を1種類につき1枚ずつ印刷します。

印刷前に上図の印刷選択ダイアログが表示され、印刷したいページを選ぶことが可能です。 印刷したくないページはページ名の左のチェックを外してください。

7-2 印刷設定

メニューの $[y-\mu] \rightarrow [オプション] \rightarrow [印刷]$ で報告書印刷時の設定を変更できます。 これらの設定はすべての報告書の印刷に影響します。

7-2-1 順路印刷

建築物登録画面での順路印刷をする時に、有効にされていない測定場所も印刷したい場合にチェックを入れます。

7-2-2 余白調節

左のラジオボタンで表紙・概要・詳細・グラフのいずれか調整したい用紙を選択し、数値入力部分に余白の調整量(mm)を入力します。調節によって用紙の印刷可能領域から外れた部分は印刷できません。

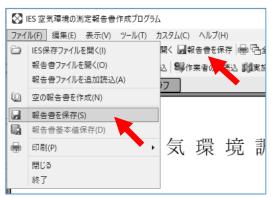
7-2-3 白黒印刷

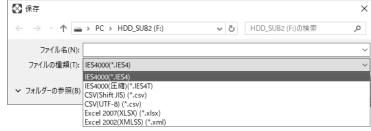
カラー印刷を抑制したい場合にチェックを入れておきます。

8 報告書保存

8-1 ファイル保存

メニューの [ファイル] あるいはツールバーから [報告書を保存] で、開かれている報告書をファイル形式を指定して保存できます。





8-1-1 報告書形式での保存

保存後にも本プログラムで報告書の表示・編集・印刷をおこなえる保存形式です。

デスクトップやエクスプローラーなどで表示される アイコンの大きさは表示設定によって変化します。



IES4000 (*.IES4)	標準の報告書保存ファイルの形式。圧縮されていません。
IES4000 (圧縮) (*.IES4T)	IES4形式のファイルを圧縮した形式です。
	ファイルサイズは1/10ほどに小さくなります。
	(画像を挿入していると逆に大きくなる場合があります)

8-1-2 CSV/EXCEL 形式での保存

CSV (Shift JIS) (*.CSV)	カンマ区切りのCSVファイルとして保存します。
CSV (UTF-8) (*.CSV)	文字エンコードをUTF-8でCSVファイル保存します。 Shift JISで扱えない文字を使用している場合でも正しく 文字保存されます。
Excel2007 (XLSX) (*.xlsx)	EXCEL2007以降での直接読み込める形式で保存します。 一部の書式が保持されます。
Excel2002 (XMLSS) (*.xml)	EXCEL2002以降での直接読み込める形式で保存します。 一部の書式が保持されます。

8-1-3 クリップボード

メニューの[編集]から[クリップボードへ]で、開かれている報告書の内容をクリップボードにコピーでき、メモ帳やEXCELなどにCSV相当で貼り付けをおこなえます。

EXCELへの貼り付けでは [形式を選択して貼り付け] で [XMLスプレッドシート] を選択するとXMLSS相当での貼り付けがおこなえます。

EXCELのバージョンが古く文字化けする場合にはCSVで貼り付けをおこなってください。

9 報告書オプション

報告書を開いている状態でメニューの「編集」から「報告書 Option」が設定できます。

9-1 範囲外書式

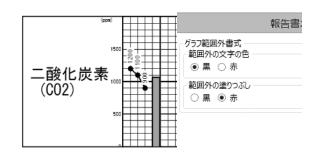
詳細ページで表示・印刷される測定値が、概要で設定されている範囲外にある場合の文字の色と背景の色を選択します。





9-2 グラフ範囲外書式

範囲外の測定結果がグラフに表示される場合 の文字の色と塗りつぶしの色を選択します。



9-3 判定

□温度(0.1m)の判定を行う

温度測定は1.2mの位置の温度のほかに0.1mの位置の温度も測定をおこなえます。温度の許容範囲の判定は1.2mでは常に判定をおこないますが、「温度(0.1m)の判定を行う」にチェックを入れている場合には0.1mの温度の判定もおこない、最低値・最高値・不適箇所数に含まれるようになります。

□ CO, CO2, 粉じんの瞬間値に範囲外書式を適用する

平均値で判定をおこなうCO、CO2、粉じんでは瞬間値は判定対象になりませんが、チェックを入れておくと範囲外の書式の適用のみをおこないます。

9-4 表紙

□ 表紙と表紙以外の建物名称を別にする

チェックを入れていない場合は、表紙でのみ建物名を入力でき、概要及び詳細の建物名 欄は表紙の建物名と同一となります。

チェックを入れた場合は、概要及び詳細でもそれぞれ異なる建物名が入力可能になります。

□ 表紙と表紙以外の日付の書式を別にする

チェックを入れていない場合は、表紙右上の日付と、概要・詳細右上の日付の書式は同一 となります。

チェックを入れた場合は、概要及び詳細でもそれぞれ異なる日付が入力可能になります。

9-5 概要表示

9-5-1 実施者・補助者の欄の行数

概要ページ右上の欄の実施者・補助者入力欄の数を0~4の範囲で変更できます。

建築物名称								
測定年月日	平成	26	年	09	月	29	日	31
測定実施者								~
補助者1								~
補助者2								~
補助者3								~

9-5-2 喫煙所出入り口風速

チェックを入れると概要ページの測定項目で、気流とは別に気流(喫煙所境界)が表示・印刷されるようになります。

喫煙所出入り口風速とするには、記録編集で測定場所種別を喫煙場所とします。

9-5-3 測定値の最高値を右側に表示する

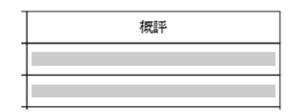
チェックを入れると測定値の最高値と最低値の並びを入れ替えます。

測定値			
最高値	最低値		
26.5℃	22.0℃		
45.0%RH	33.0%RH		

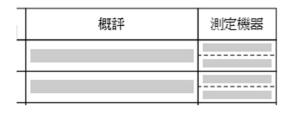
測定値		
最低値	最高値	
22.0℃	26.5℃	
33.0%RH	45.0%RH	

9-5-4 使用測定機器の入力欄を追加する

チェックを入れると概評を2分割し、測定機器の入力欄が追加されます。



チェックを入れる前



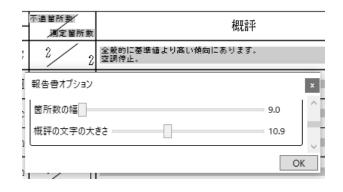
チェックを入れた後

9-5-5 箇所数の幅

不適箇所数と測定箇所数の列の幅を変更することができます。

9-5-6 概評の文字の大きさ

概評に入力される文字の大きさを変更することができます。



9-6 詳細ページ設定

9-6-1 場所名の幅

測定場所列の幅を変更することができます。

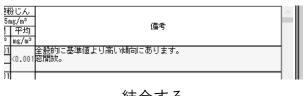




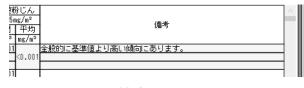
広く

9-6-2 備考を結合する

チェックをすると測定毎に分かれている備考入力欄を1行にまとめます。



結合する



結合しない

9-6-3 詳細行

詳細ページで測定場所1点に何回分の測定値を表示させられるかを設定できます。 設定可能回数は2回もしくは3回となります。



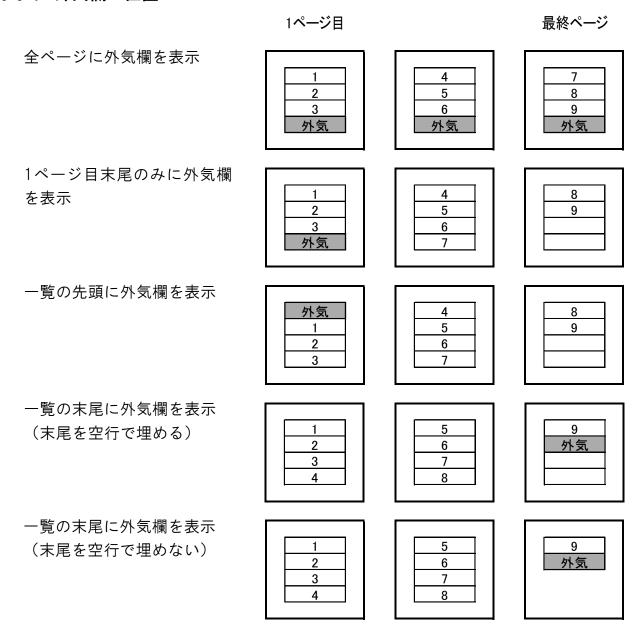
2回



3回

測定回数の表示を2回にするには、最左列の測定場所の説明を2行以下に設定する必要が あります。説明文の表示・非表示は、9-6-7 測定場所説明で設定します。

9-6-4 外気欄の位置

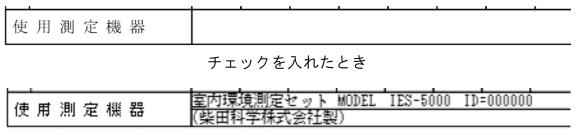


9-6-5 末尾を空行で埋める

チェックを外しておくと最終ページの未入力欄を削除します。

9-6-6 使用測定器機器欄を自由にする

チェックを入れると詳細ページの最下段にある使用測定機器の項目が自由に入力できるようになります。



チェックを外したとき

9-6-7 測定場所説明

測定地点番号を表示する	1行目に表示 登録されていた測定場所の番号		
	(1から98が通常の場所。0と99が屋外)		
測定階数を表示する	1行目に表示 登録されていた測定場所の階数		
測定場所説明1を表示する	2行目に表示 登録されていた測定場所の説明1		
測定場所説明2を表示する	3行目に表示 登録されていた測定場所の説明2		
階数と説明1を連結する	説明1を階数の表示行に続けて表示する		
説明1と説明2を連結する	説明2を説明1の表示行に続けて表示する		

9-6-8 外気の2地点目(99)を表示する

	1 00.00
AU 00(1888)	00:00
外 00(1階) 気 北入り口前	00:00
X 107C 7 L BV	00:00
AU 00(1888)	00:00
外 99(1階) 気 南入り口前	00:00
文 時人 グロ 的	00:00
使 用 測 定 機 器	室内環
灰 历 例 定 版 础	(柴田科

チェックを入れたとき

	00.00
19(078%)	00:00
12(0階) 未指定	00:00
个 14 化	00:00
AU 0.0 (1 1788)	00:00
外 00(1階) 気 北入り口前	00:00
X NCA Y LIBI	00:00
使用測定機器	室内環
1X 714 1X1 XL 186 186	(柴田科

チェックを外したとき

9-6-9 外気の在室・喫煙人数を表示する

		~	
A 00(188)	00:00	0	0
外 00(1階) 気 北入り口前	00:00	0	0
X PCX Y D BU	00:00	0	0
M 00(18%)	00:00	0	0
外 99(1階) 気 南入り口前	00:00	0	0
X HIX Y D BU	00:00	0	0
使 用 測 定 機 器	室内環境	寬測定·	セット
医内侧足板	(柴田科	学株式	会社製

チェックを入れたとき

	<u> </u>
A 00(188)	00:00
外 00(1階) 気 北入り口前	00:00
X NOV A D BI	00:00
A 00(188)	00:00
外 99(1階) 気 南入り口前	00:00
X 143/C 7 L 83	00:00
使 用 測 定 機 器	室内環境測定セット
医角侧足派硷	(柴田科学株式会社製

チェックを外したとき

10 オプション

10-1 初期表示

10-1-1 管理画面の初期表示

管理画面を開いたときに表示する画面を選択します。

10-1-2 報告書画面の初期表示

報告書を読み込んだ時に表示する画面を選択します。

10-1-3 印刷時の項目選択初期値

このオプションで設定されている用紙は、全印刷もしく は空白印刷をおこなう時に表示されるダイアログで、初 期状態で印刷するようにチェックされます。

10-1-4 ツールバー

「ツールバーの文字を表示」のチェックを外すとツールバー ボタンの文字が非表示になります。

「ツールバー表示位置」で上下左右のいずれかを選択すると、 ツールバーの配置が作業領域の上下左右に移動します。

10-1-5 起動時

「最大化して起動する」にチェックを入れておくと、本 プログラムは最大化した状態で起動します。

10-2 報告書

10-2-1 報告書の測定点数

保存フォルダから読み込んで報告書を作成するときに、 各測定場所での測定回数がこのオプションで指定した回 数以上になるようにします。

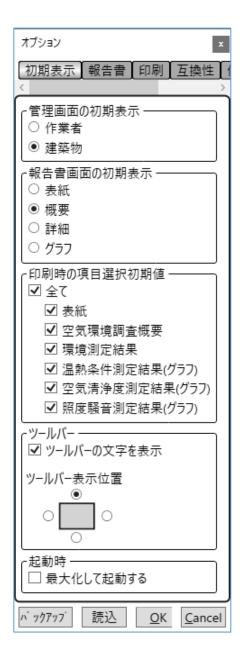
例1)

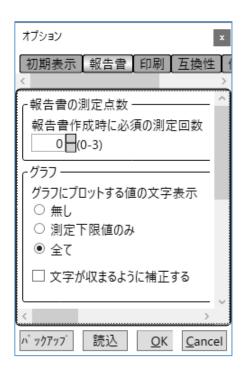
このオプションを3回にして報告書を作成する場合、1回だけ測定した測定場所には残りの2回分を空の測定値で自動で追加します。2回測定した測定場所には1回分を追加します。

例2)

このオプションを2回にして報告書を作成する場合、1回だけ測定した測定場所には残りの1回分を空の測定値で自動で追加します。2回測定した測定場所には追加されません。

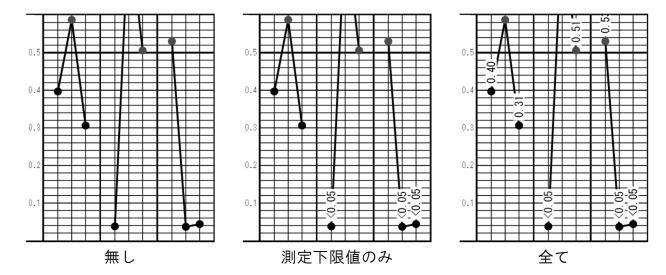
3回測定した測定場所はそのまま3回の記録となります。





10-2-2 グラフ

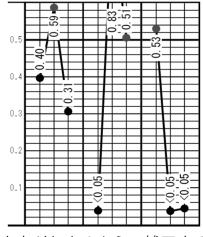
グラフに測定数値をどのように表示するかを指定します。下図は気流の場合です。



気流は測定器の測定下限が0.05m/sであるため、0.05未満は測定下限の<0.05という表記になります。「測定下限値のみ」はこの測定下限の場合のみ表示します。

グラフの軸設定で設定されている上限あるいは下限の範囲 外の測定値は、数値が表示されなかったり不完全になる場 合があります。

「文字が収まるように補正する」にチェックを入れると、数値がグラフの表示領域内に収まるように位置を補正します。



文字が収まるように補正する

10-2-3 初期の登録業者

登録業者の一覧を登録していない場合や、登録業者の一覧がない場合に参照する登録業者を1件登録しておくことができます。

10-2-4 報告書を作成する時

「測定記録ファイルの測定機器名とIDを維持する」のチェックを外すと、報告書基本値取込を行ったときに概要ページの測定機器入力欄について、基本値(6-4 報告書基本値)の測定機器名とIDが優先して表示されます。

10-2-5 報告書を閉じる時

「報告書基本値を自動保存する」にチェックを入れると報告書を閉じる時に、報告書の元となった建築物で報告書の表紙に入力した基本値(6-4 報告書基本値)を保存するようになります。自動保存されるにはIES報告書作成から建築物を指定して報告書を作成した場合のみになります。

10-3 印刷

10-3-1 順路印刷

チェックを入れておくと建築物の測定場所 の一覧を印刷するときに、すべての場所を 印刷します。

チェックを入れないと有効としている場所 のみが印刷されます。

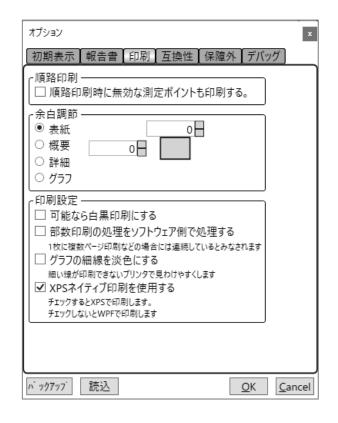
10-3-2 余白調節

左のラジオボタンで調整したい用紙を選択し、数値入力部分に余白の調整量(mm)を入力します。調節によって用紙の印刷可能領域から外れた部分は印刷できません。

10-3-3 印刷設定

10-3-3-1 可能なら白黒印刷にする

チェックを入れておくと、印刷時にカラー 印刷を抑制します。



10-3-3-2 部数印刷の処理をソフトウェア側で処理する

チェックを入れておくと、印刷時にプリンターの機能で部数処理をせずに、ソフトウェア側で複数部数の出力をおこないます。

10-3-3-3 グラフの細線を淡色にする

プリンタードライバーとの相性でグラフが見えづらい場合にチェックを入れてください。

10-3-3-4 XPS ネイティブ印刷を使用する

プリンタードライバーとの相性でグラフが印刷されない場合にチェックを入れてください。

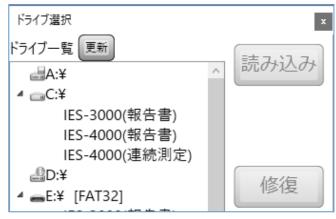
10-4 互換性

「IES3000の保存ファイルも検索する。」にチェックを入れると、保存フォルダ検索時にIES-3000の保存ファイルを検索するようになります。



検索しない

「IES4000の連続測定フォルダも検索する。」 にチェックを入れると、IES-4000の連続 測定フォルダ(IES4000D)も検索するよ うになります。



検索する

10-5 保障外

「可能な場合にEnterキーでフォーカス移動する。」にチェックを入れると、キーボードの [Enter] キーを使ってフォーカス移動します。

10-6 デバッグ

10-6-1 報告書ページフォント変更

印刷すると文字が変形や文字化けしている場合に、別のフォントで印刷できるようにします。 問題なく使用できている場合は、変更を控えてください。

10-6-2 ファイルロックを無効にする

書き込み禁止のUSBメモリから読み取り専用で読み出しを試みます。 ただし、書き込みがおこなえない状態では正常な動作は保証されません。

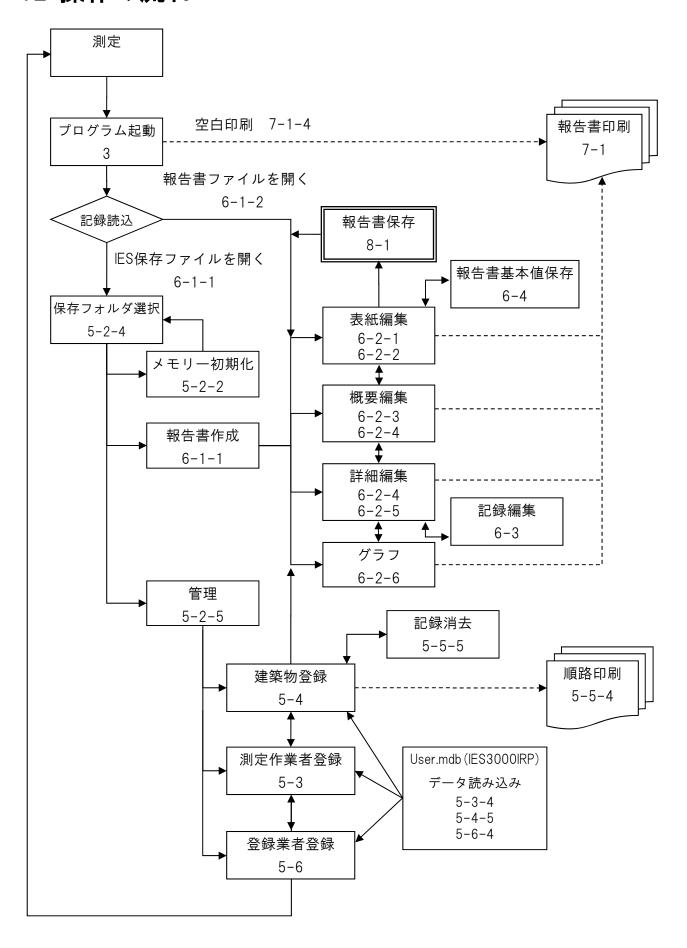
11 拡張機能

拡張機能コードを登録すると通常は無効となっている機能が有効となります。 拡張機能は特別仕様のユーザー様向けの機能となっており、以下の種類があります。 詳細につきましては当社営業にお問い合わせください。

11-1 印影の表示と編集

報告書の「空気環境調査概要」ページの測定実施者および補助者名入力欄に作業者の印影を 追加できるようになります。

12 操作の流れ



13 注意事項

データ紛失防止のため、バックアップをおこなうことを強くお勧めします。その場合、「IES4000」というフォルダ全てをコピーするようにしてください。

一部のみのコピーではデータの不整合により読み書きできなくなるおそれがあります。

お問い合わせ

本製品につきまして、ご不明な点、ご用命などがありましたら、お手数ですが、お買い上げ 販売店もしくは当社までお問い合わせください。

免責事項

本製品を使用中、万一何らかの不具合によって、データの取得および記録がされなかった場合の内容の補償および付随的な損害(事業利益の損失、事業の中断など)に対して、当社は一切の責任を負いません。

また、当社は、製品の故障に関して一定の条件下で修理を保証しますが、記憶されたデータが消失・破損した場合については、補償していません。修理その他当社へのご依頼時は、必要なデータのバックアップを作成してください。お客様が、本書の注意事項に違反し、またはバックアップの作成を怠ったために、データを消失・破棄に伴う損害が発生した場合であっても、当社はその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

20.05.26K (04)



カスタマーサポートセンター (製品の技術的サポート専用) 0120-228-766 FAX 048-933-1590

http://www.sibata.co.jp

注)改良のため形状、寸法、仕様等を機能、用途に差し支えない範囲で変更する場合があります。